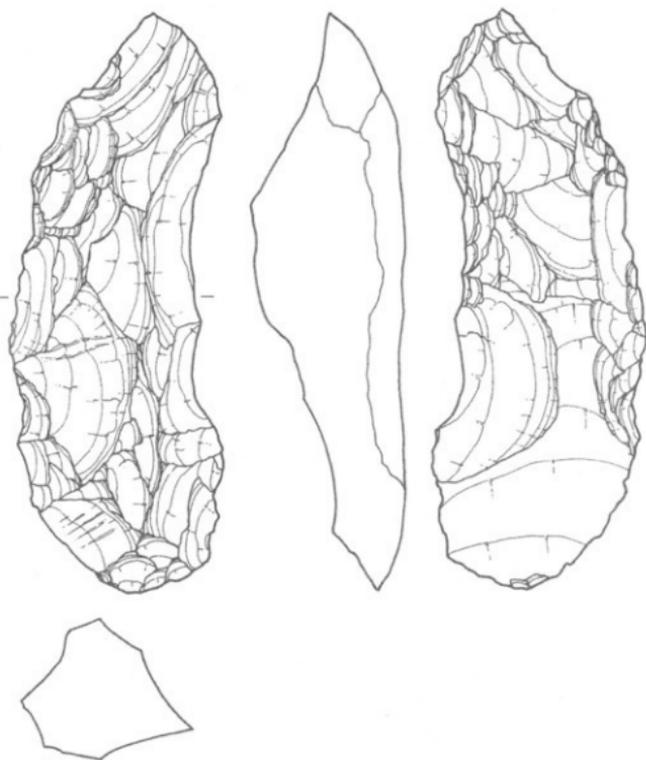


文化財調査報告書

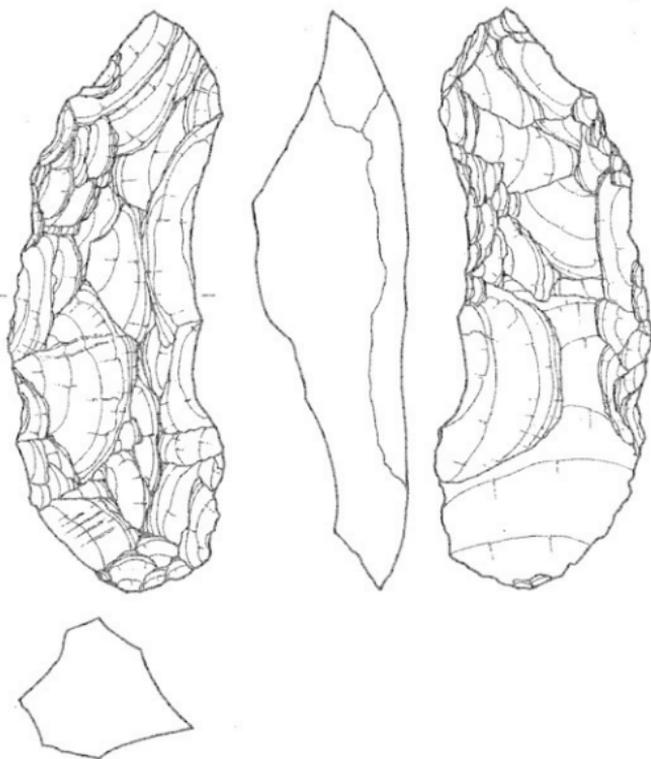


前橋市教育委員会

平成7年度

第26集

文化財調査報告書



前橋市教育委員会

平成7年度

第26集

序

生きた展示をしなさい。これは文化財の活動に対する市民の皆さんの思いを表したことばであろうかと思えます。貴重な文化財を固定化して保存するだけでなく、活用するなかで、その意義を理解していただき、一層の保存が図られるようにすること。その翻訳作業とでもいう仕事が文化財の仕事の中で重要になってきています。発掘だけでなく管理運営、普及整備、調査事業がすすめられる中で仕事を行っております。

大室公園史跡整備では、小二子古墳の範囲確認調査が行われ、埴輪の検出など貴重な成果を得ることができました。整備委員会においても、史跡整備、民家変遷、資料館部会がそれぞれの計画の中で活動し、赤城型民家については工事も始まりました。

歴史散歩道整備については、案内板の設置、散歩道地図増刷など利用増進にむけた事業が行われました。総社資料館が開館し、ボランティアガイドによる説明も始まりました。元総社、総社地区での散歩道利用促進の秋元歴史まつりも第6回となりました。

普及事業としては、郷土芸能大会、文化財展、文化財普及講座、史跡めぐり講師派遣等の事業を実施しました。文化財展は、市民文化会館の展示ホールに会場を移し、シンポジウムを同時に開催いたしました。

調査事業では、本書に記載の文化財調査委員の調査に加え、専門家調査を実施し、建造物調査報告書を刊行いたしました。

埋蔵文化財発掘調査では、開発に伴う試掘調査、遺跡の発掘調査と芳賀団地遺跡の報告書作成作業があげられます。内堀遺跡は第9次、大屋敷遺跡は第4次調査を実施し、貴重な遺跡の記録保存を行うことができました。

最後に、こういった諸事業にご指導、ご協力いただいた関係各位、機関に深く感謝申し上げますと共に、この文化財調査報告書第26集が文化財保護の一層の推進のために活用されることを祈念し、結びといたします。

平成8年9月

前橋市教育委員会

教育長 岡本信正

目次

表紙

序文

目次

I	文化財調査委員による調査	1
	西光寺、禪養寺文化財調査	1
	古文書、文化財一覽	2
II	文化財調査	4
	光巖寺文机調査	4
III	新指定物件紹介	5
IV	文化財保護事業	7
	管理運営（共催、後援を含む）	7
	整備	9
	普及	11
	調査	13
	埋文調査	15
	各遺跡	17
	大室公園史跡整備	29
	あとがき	31

I 文化財調査委員による調査

文化財調査委員による調査は、平成7年10月19日、20日上佐烏町の西光寺と山王町にある禅養寺の古文書と什物の調査を行った。

●西光寺文化財調査

名称 佐烏山安養浄土院西光寺

所在 前橋市上佐烏町289-1

本尊 地藏菩薩

宗派 天台宗

住職 谷 晃瑞

「前橋風土記」には、次のように記されている。

群馬郡佐烏村に在り。弘仁年中法相宗徳一の所として立つなり。寺中に春日神社を設け鎮守と為す。祭礼は南都興福寺の例に因む。弘仁元年より応安年中五百四十年の間に至る、天下干戈の時に止むなく、もとの南都と道路絶たれ、相宗之徒、是に於いて絶つ。天台沙門村雄入寺より以来主寺の僧宗天台なり。家光公より鎮田十有五石の尊印を賜る。

近くの大供町には京安寺の地名もあるので、かつての西光寺はこの京安寺と何等かの関係があったのかもしれない。

天保15年4月7日、客殿からの出火によって客殿、庫裏、十王堂、表門、土蔵、長屋などを焼失したが、本尊、朱印状などは焼失を免れて現存している。

●禅養寺文化財調査

名称 日吉山寂光院禅養寺

所在 前橋市山王町1-6

本尊 釈迦如来

宗派 天台宗

住職 小出 晃正

寺伝によれば、貞観2年(860)慈覚大師がこの地に来て山王七社を祀り、伽藍を創建したという。戦国時代に兵火にあつて焼け、文禄年間(1592~96)に再興した

という。「前橋風土記」の旧那波郡上陽村の項に「天台修法の精院たり。嘉応元年(1169)に立つる所なり。元亀元年(1570)7月初七、詔を承つて皇帝(正親町天皇)の万福と天下の安泰を祈る。家光公の尊印を拝受して田54石を領す」と記されている。

元徳3年(1334)の長楽寺文書に善養寺内田や高山弥四郎重明領地などを見ていることから、鎌倉時代から続く古い寺であることが分かる。山王の地名も当寺の守護神山王日吉神社から出たものと思われる。

本堂は、柏木沢村(現箕郷町)の大工貞宴が寛政5年(1793)9月より始めて、同6年11月上棟、翌7年11月に引渡しとなっている。かかった大工は延べ1889人、金45両、ただし作料小夫白米11石、味噌5樽、白米12石7斗余りである。

寺域周辺に南北朝の山王の宝塔(市重)や嘉吉年間(1441~44)の宝篋印塔がある。

西光寺所蔵文書目録

文書番号	表	題	年 代	作 成 者	数	備 考
1	朱印状		慶安二年八月二十日		1	大猷院様御朱印(十五石(3代家光))
2	朱印状		貞享二年六月十日		1	幕府原御朱印(5代綱吉)
3	朱印状		享安三年七月十日		1	有徳院様御朱印(8代吉宗)
4	朱印状		延享四年八月十一日		1	享徳院様御朱印(9代家康)
5	朱印状		寛政二年八月十一日		1	深明院様御朱印(10代家治)
6	朱印状		天明八年九月十日		1	文治院様御朱印(11代家斉)
7	朱印状		天保十年九月十日		1	情徳院様御朱印(12代家慶)
8	朱印状		安政二年九月十日		1	暹羅院様御朱印(13代家定)
9	朱印状		萬延元年九月十日		1	(14代家茂)
10	天寿よりの種任状		寛永七年二月十日		1	上野国厩橋佐鳥山西光寺
11	雷状(窟)		享保七年三月二十四日		1	朱印引(引き)つき窟状。全海が三月三日に朱印一通を引き返した。
12	寺格之事		明治十四年六月		1	七寺三殿大寺
13	酒井河内守書状		五月八日	酒井河内守	1	安藤石宗彦、松平出雲守宛に西光寺の寺格の15石は酒井河内守拝願の高外である旨を記した書状。
14	慶安二年朱印状写				1	原本は別にある。
15	雷状(軒状)		明治十四年六月	天台宗経行より	1	往願蓮池得到に本堂色衣貫白大五條番用許可
16	口上書				1	有徳院の朱印を住職が乱心して引き裂きにつき寺社奉行へ届する。朱印五通目録あり。
17	西光寺寺福朱印歴代目録		宝暦十三年		1	慶安二年の朱印状から宝暦十三年までの五通所持の報告を谷中金剛寺宛に出したもの。
18	書状		元二月十二日	信解院、住心院より	1	当任全宗(40歳)流がに朱印状引き裂きにつき届出。松平対馬守御役人牛兜
19	雷状		寛三月廿六日	信解院、住心院より	1	御朱印拝見いたしたく。寛十用嵐の節。
20	雷状		十一月七日	若島昌吉書得より	1	東照宮当御せつけられ。西光寺主権方牢宛。
21	書状		十二月四日	松林院實得より	1	野原善徳院へ転住の件。西光寺宛。
22	達書		明治三十五年五月四日	天台座主延徳寺大願正村田源助より	1	西光寺を格別八等とす。
23	雷福		五月八日	田沙堂門跡在寛より	1	御朱印願につき西光寺額十五石 地鎮酒井河内守宗状のこと。安藤石宗彦、松平出雲守宛。
24	雷状		天保十五年四月廿七日		1	西光寺が天保十五年四月廿七日夜八時の焼失の作。
25	雷状(達)		同上		1	西光寺焼失につき届出。下奥杉松、馬焼死。
26	雷(達)		四月十六日		1	若島昌、意忠院宛。西光寺七日夜八時の書殿兼書庫より出火。書殿、庫裏、十王堂、表門、土蔵、長屋を残す焼失。七日間の達書。本尊、朱印は無事。阿内村検定寺へ書取を以て申達し。
27	寛		明治元年十月	寺社住所	1	寺額高松五石 御朱印九通。
28	過去帳(一)				1	徳一を御縁とし、村越を二代として以下代々記す。特に神仏習合の実態を示すように、一日から三十日までの上に各神仏名を記載している。三十番神の思想を具体的に示すものとして珍しい。
29	過去帳(二)				1	寛延三年以降天保に至る。
30	過去帳(三)				1	寛政から天保まで。
31	過去帳(四)				1	天保五年から安政三年まで。
32	新書記(五)			当務寛弘代	1	安政四年七月
33	過去帳(六)			安養浄土院	1	元治元年九月より明治十年十二月まで
34	過去帳(七)			三六世純則新調	1	明治十一年より明治三十一年
35	過去帳				1	明治三十一年から昭和二十九年まで。
36	泉籍簿		明治二十三年八月		1	1号から117号まであり、法名と族稱、氏名を記す。

禅養寺所蔵文書目録

文書番号	表	題	年 代	作 成 者	数	備 考
1	禅養寺後住発命書		二月八日	徳法院院尼、信徳院院尼、神徳院院尼の三名達書	1	禅養寺無任につき、後住に起発院が発命された。禅養寺門中、旦部中に宛じたもの。
2	木蘭色の衣箱用許可状		寛保二年十月	海蔵王院大覚の二名達書	1	現住寛保の願により紫衣の下の木屨衣箱用を許可した。
3	後住発命書		延享四年三月	信解院院尼、寶王院院尼の二名達書	1	輪王寺より禅養寺住任に久成院を発命した。禅養寺末寺中門院中、旦部中に宛てたもの。
4	朱印状写		延享四年八月十一日		1	五池四石、寺中門前山林竹林師役等免除。
5	住持徳院より禅養寺に与えた雷状		寛政九年四月	住持徳院、成功徳院の二名達書	1	禅養寺住任が末寺末寺再建や天明三年法門境の酒殿寺扶助などの善行により諸法より褒美を賜ふなどのことが上聞に達したため。
6	禅養寺後住に妙観院発命書		文化六年五月	大覚王院の二名達書	1	妙観山御供所院が発命された。禅養寺旦部中宛て。
7	朱印状写		慶安二年二月		1	内容は№4と同じだが、全文を写していない。四代将軍家綱公の貼紙あり。
8	禅養寺朱印状写		享保三年七月十一日		1	№4に同じ。
9	禅養寺転住発命書		文化十二年十二月	大倉忍院、海蔵王院達書	1	禅養寺住任に勢多郡正法院に転住を命じている。
10	多胡平太夫由來記		明治十八年五月	勢多郡源光の妻古賀教信	1	写1
11	御朱印御改二付出府中日記		天保九年及明治五年	東叡山源然書	1	
12	日志山住持時記		嘉永四年正月		1	寛貞二年慈覚大師当所在下向叡山王七社堂、嘉永四年亥年或九百九十二年ニテリ
13	高木縁徳志満納帳		文久二年三月十三日	禅養寺住任	1	
14	本堂再建入用帳		文久二年三月改	山王村禅養寺世話人	1	
15	禅養寺明願				隔り	境内範圍、天明、天保十三年焼失のこと。(文久二年記) 檀家白田拾軒(明治五年)

文書番号	表 題	年 代	作 成 者	数	備 考
15	禪費寺明細			1冊	朱印地五箇四石 寺人別改帳(元治元年) 親光院禪費住持記(文化六年十月記) 天正寺什物帳(天保八年) 寺別所有明細帳
16	御朱印字			1冊	9件
17	那波氏(大江氏)系譜			1巻	中原朝臣大江氏那波系譜 天正五十一代平城天皇以降那波安寿丸に至る。
18	天海書簡	九月七日	南無正天海	1巻	那波口光院御門中宛
19	源空撰経蓮往生録(写本)			1巻	
20	山王社祭禮議定之事	安政三年九月	山王、東善養、横田、西善養、矢田、阿家(中内役人、山王坂人)から	1	山王の祭礼に越馬を行う議定
21	(元龜年間願折)写	(元龜元年七月七日)	日高山禪費寺	1	
22	勸進帳	寛文七年	高天と前原による		
23	南無最後入滅の祈願文				
24	薬上流胎舎舎圖	明治期		1巻	薬上流の胎伝を記したもの。
25	本尊再興助成記	寛永四年	禪費寺		
26	山王宮御神事其外の徒	嘉永四年二月	山王村の社人新井勘助	1	新井が写した山王定の抄書
27	華道通書 乾之奉	文久二年	松海堂樂子斯文	1巻	書法のことを記した伝授書
28	二道通式	天和三年五月	魚山亭樂子	1巻	梅葉書の形を記し、朱で読み易い通書などの印をしている。
29	書状	十月十四日			禪費寺焼失につき、客僧常春留より出火、御朱印、過去帳は取り出した。寺七日間遷座申し付、再建のこと達し、廣有院御朱印汚れこれあるにつき寺社奉行所へ
30	書状	明治元年十月十六日			
31	証台の侍				
32	御朱印控			1巻	朱印6通 宝曆十三年五月二十八日松平大和守より預贈。
33	追加議定	萬延元年九月			山王祭礼の場外れ越馬となり口論
34	書簡	七月十二日 (總持家)		1巻	先相野兵衛宗賢 百五十回忌法事のこと
35	寛	安政三年十二月	禪費寺松光		御朱印頂取御書 藤吹平太武蔵弥太夫宛
36	御朱印控	文久元年二月十四日	禪費寺		
37	寛	八月日	天川間天王寺議定 西片貝村玉藏辰祐翁		山王村本山邸使儀書 持地年幾地敷境内地等
38	書簡(即日券状)	四月廿六日			上州山王村禪費寺 龍王院 功地院
39	書簡	七月十三日	新野野兵衛成孝		親光院大和守宛 先相野兵衛介供養のこと
40	包紙				金書四葉分
41	寛(法事科)	不詳			法事科一頁二分
42	御朱印控	萬延元年九月十一日		1冊	御動定所宛
43	上野郡那波山王村仮名帳	享和三年九月		1冊	
44	昔撰中人足伝馬控帳	安政三年三月	山王村日吉山世話人		
45	国定歌	丁卯初五日		1冊	
46	費御改帳	文化八年十月		1冊	禪費寺明細
47	御朱印御次日記写帳	安政二年九月	山王村禪費寺松光	1冊	
48	元龜王寺御遷座(納人附書)上紙	天保十五年四月	天王寺遷座御次(伝通名主)	1冊	
49	東嶽山御胎帳	嘉永四年			天保十二年分領部改書上
50	本堂再建書附帳	嘉永元年十一月日		1冊	再建上御書等 二十四分二集と二百二十四文
51	山王太平御縁写		禪費寺村山王村下飛騨	1冊	日高山禪費寺住持真跡印 山王本堂下野内と浄徳院事 正徳四年太政官布告写 宮門牌方 長楽寺 真光寺
52	三御門御前書 北嶽山三行代			1冊	
53	当寺日誌高書付寫帳	文政二年四月		1冊	
54	雑記	不詳		1冊	裏紙方 十二連 六十四段 針掛 長歌
55	前禪輝延寺宿願社地出入	明治三年十二月十日		1冊	光洲院寿延寺
56	東光山臨王院楽師の寺付宝				寛
57	瓦鐘御改書上帳	安政二年			上野郡那波山王村親光院禪費寺 瓦鐘 千時宝皇甲戌歳十一月吉祥日 佐野社務所御夫山善太郎御印 寺社奉行所宛
58	御胎書写巻	慶応四年八月晦日		1冊	16点の写や控など
59	三則并書	明治		1冊	寺子屋用の修身書
60	本堂書表書寄附金簿	大正八年三月			本堂置替えの寄附
62	御遷馬之作法				聖者忠孝所撰持運宮之作法
63	出地貸附記帳簿	昭和9年1月改正			禪費寺の出地貸附記要(昭和10年~14年)の5年間の小作賃附証書控
64	出府添納控	文政十年三月			禪費寺志高が文政十年三月に出府した時の添納の控
65	十七世聖賢登山勧進簿	昭和十五年			下町家分 わら半紙半折 三十三円
66	十七世聖賢登山勧進簿	明治末年か			矢田分 五十四円
67	日高山第十七世聖賢登山淨財簿				淨財寄附帳
68	禪費寺境内田畑山林地目簿			1冊	日高山六ヶ所唐化に寺の所有地を田、畑、山林別に書き上げたもの
69	堅籠登山淨財帳	昭和十五年		1冊	禪費寺住職の親山へ修行に行くときの寄附金控帳
70	堅籠登山勸進簿	昭和十五年		1冊	No.69と同じ内容
71	堅籠登山勸進簿	昭和十六年		1巻	寄附金控帳
72	禪費寺寺院台帳	明治		1冊	寺の由来、寺領の土地、檀家戸数などの記載あり。
73	禪費寺の寺規規則認可申請書	昭和七年		1冊	寺の平面図もある。
74	祭殿大御前真影	明治廿五年十月二日			天海二百五十回忌 墨一色 木版
75	祭出書申渡書之事	明治元年十月	神注新出園山下村から		神仏分限にかかわる山王宮祭礼の件。禪費寺宛。
76	越後大和御行筆記	文久三年三月二日			墨一色 木版

II 文化財調査

光厳寺文机調査

石山寺蒔絵机

1基

江戸時代・18C前半

幅93.6 奥行39.5 高28.8cm

群馬県前橋市・光厳寺蔵

天板の左右両端に幅広の華返しをつけた大型の机。天板の裏に受木を打ち、四本の角形の脚柱をつけ、地摺の板で受ける。それぞれの脚の間には、補強のために各二本の脚を廻らしている。

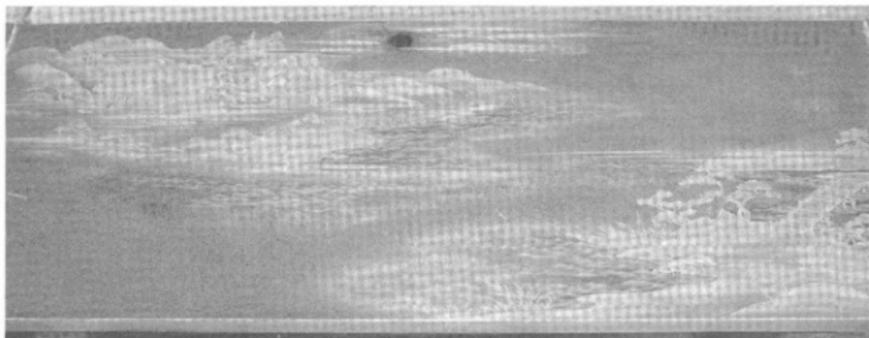
総体詰製地。金の高蒔絵、薄肉高蒔絵を基調に、青金蒔絵、切金などを交えて文様を描く。月は銀の金貝で表わされていたとみられるが、現状では欠失している。

天板の上面に描かれた文様は、いわゆる近江八景のうち、石山寺周辺の景観を描いたもので、左上方には月明に浮かぶ石山寺の堂塔を、右下方には瀬田の橋を記している。

石山寺については、紫式部が源氏物語の執筆にあたった際参籠した、という伝説があり、そのためか、硯箱、料紙箱、書草笥といった文房具の画題として石山寺が登場する例が数多くみられる、この作品もその範疇に入るものであろう。

なお、この机は、金や青金（金と銀の合金）を多様して豪華に飾られているが、元禄期以降に流行したこのような様式を、時の将軍徳川綱吉の院号に因んで常憲院時代物などと称する。

（調査者、東京国立博物館 漆工室長 小松大秀）



III 新指定物件紹介



高須家墓地

- ・区 分 史跡
- ・記号番号 史第17号
- ・指定年月日 平成8年4月5日
- ・所在地 前橋市三河町一丁目19番37号
正幸寺
- ・所有者 正幸寺
- ・管理者 正幸寺(住職 瀧澤 現秀)
- ・概要

高須家は三河出身の武士で、酒井氏が前橋入封時には大胡宗の筆頭となり、元和2年(1616)には大胡城代格でもあり、前橋城の普請総奉行を務めている。代々家老の家柄で、3000石の石高であった。代々主殿または筆頭を名乗っている。藩主酒井忠世、忠行、忠清、忠挙が老中、大老として江戸にいたることが多かったため、地元のことは高須筆頭家が筆頭家老として藩政を取り仕切っていた。

酒井忠世の時代には、前橋藩制の確立に努力している。また、元禄検地を行い、藩財政の立て直しに大きな功績があった。

前橋市三河町の正幸寺本堂の横にある高須家の墓は一番古いもので寛永6年(1629)のものから、一番新しいもので延享4年(1746)までの37基ある。この中で、北

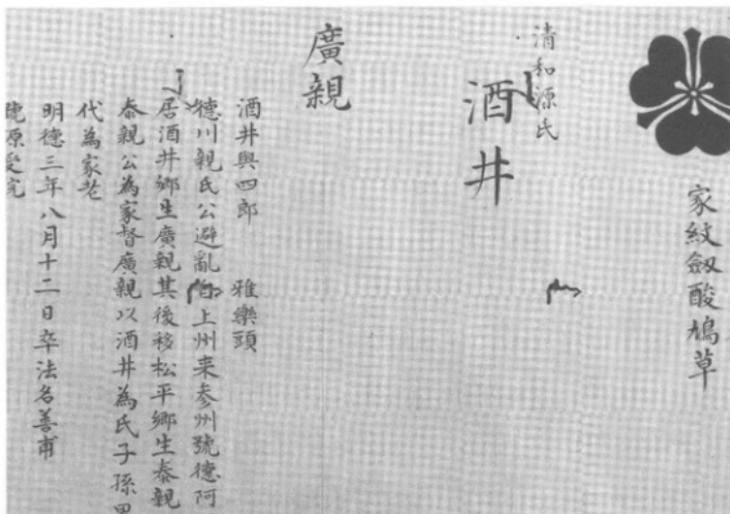
側正面にある正徳3年(1713)の年号の入ったものが、沼田藩の検地で有名な高須筆頭家の墓である。

この高須筆頭家は5代目で、名前を広備(ひろとも)という。文武両道に達していた人物で、公平を旨として仕事にとりくんだようである。生まれた年は分かっていないが、酒井家の筆頭家老をつとめていた貞享元年(1684)に沼田領内の再検地を総奉行として行っている。また、元禄2年(1689)に前橋藩でも総検地を行った。

沼田藩の検地は、実際以上に重くなった税金を検地により軽減することになったため、領民からは「お助け糶」と呼ばれ感謝された。

酒井氏は、寛延2年(1749)に姫路に転封となっているため、高須家のその後の消息は不明である。江戸時代末の天保年間(1830年頃)病気で子孫が絶え、家は断絶したと伝えられている。

高須家は代々家老をつとめ、前橋の藩政史上、欠くことのできない家である。また、石塚型の石塔が系統的に保存されており、家老の家柄を表すにふさわしい墓石がそろっている。



酒井家史料 129点（追加3点）

- ・ 区分 重要文化財
- ・ 記号番号 重第32号
- ・ 指定年月日 昭和58年4月25日
- ・ 所在地 前橋市大手町二丁目12番9号
市立図書館
- ・ 所有者 前橋市
- ・ 管理者 前橋市
- ・ 概要

前橋藩主だった酒井氏は、江戸時代の前橋の様子や幕臣としての政務などを記した貴重な資料を残していた。それを明治になってから辻善之助等によって編纂され、酒井家史料121巻、酒井家史料目録4冊、酒井家編年史料1冊の合わせて126点になっている。酒井氏の菩提寺である龍海院が酒井忠正氏から譲り受け保管してきたものであるが、昭和55年に市が買い上げて図書館に保管している。これは、昭和58年4月25日付けで前橋市指定重要文化財となっている。

今回追加指定した系図3巻は、平成5年8月に東京都にお住まいの故斎藤新一氏より図書館に寄付申込みがあったものに含まれていた史料である。

酒井家史料は酒井忠正氏が横綱審議委員会、相撲博物館長を勤めた関係で、相撲博物館に保管されていたが、前述の通り、編纂された史料は酒井氏から龍海院を経て市の所有になった。昭和50年代の始めに相撲博物館に残された史料を斎藤氏が譲受け、保管してきたもので、今回市の所有となった。

仮分類番号L202は家紋劔酸鳩草（けんかたばみ）系図で、酒井家で所有していた本系図で貴重なものである。廣親（ひろちか）より忠拳（ただたか）までのもの。幅

28.2cm。

L203は清和源氏酒井系図で、廣親より忠知（ただとも）までのもので、朱の書き込みがあり、本系図作成のために作ったものと思われる。幅28.0cm。

L204は系図昭和6年8月調となっている。縦長、縦書きのもので、親氏（ちかうじ）より忠正（ただまさ）まで書かれている。朱に注記と訂正の他、附せんがついている。幅27.5cm。

酒井家の前橋時代の歴史を知るうえで貴重な史料であり、指定となっている酒井家史料と一体のものである。

IV 文化財保護事業

1. 保護管理運営事業

本市に存在する豊かな文化財を保護し、活用するために、平成7年度において、次のような事業を実施いたしました。

(1) 国有文化財管理

国指定史跡の(総社)二子山古墳と(天川)二子山古墳は、それぞれ地元の関口藤太さんと堀口和四郎さんを国有文化財監視人をお願いし日常管理を実施しました。

また、除草作業や清掃作業等については、地元の総社地区史跡愛存会と前橋市連合青年団の方々の協力を得て実施いたしました。

(2) 国・県・市指定文化財管理

市内には、国指定文化財が21件、県指定のものが38件、市指定のものが102件あり合計161件の指定文化財があります。

各文化財には、標柱と説明板を設置し、これらの史跡を訪ねる人々の利便を図っております。

尚、区分については下記の通りです。

① 指定区分別文化財(8.4.5現在)

区分	重要文化財	史跡	天然記念物	無形文化財	民俗文化財	重美術品	合計
国指定	3	11	1	0	0	6	21
県指定	33	4	0	0	1	0	38
市指定	69	17	1	7	8	0	102
合計	105	32	2	7	9	6	161

② 時代区分別文化財

指定別 (件数)	国指定	県指定	市指定	合計	
				件数	割合%
天然	1	0	1	2	1.2
原始	1	0	0	1	0.6
古代	14	2	15	31	19.3
中世	3	19	30	52	32.3
近世	2	13	36	51	31.7
近代	0	3	5	8	5.0
民俗	0	1	15	16	9.9
合計	21	38	102	161	100

(3) 史跡の除草・清掃事業

市内各地区に存在する史跡において、市が直接管理すべきものについて、地元自治会やシルバー人材センター、業者に除草・清掃作業を委託し史跡が美しく保たれるように作業を実施しました。

実施箇所等は、下記の表の通りです。

番号	物件名	区分	所在	面積
1	龜塚山古墳	市指定史跡	山王町1-28-3	2,484㎡
2	金塚塚古墳	市指定史跡	山王町1-13-3	2,407㎡
3	今井神社古墳	市指定史跡	今井町818	3,000㎡
4	車機門跡	市指定史跡	大手町2-5-3	400㎡
5	酒井家歴代墓	市指定史跡	紅葉町2-8-15	3,800㎡
6	天神山古墳	県指定史跡	広瀬町1-27-7	730㎡
7	八幡山古墳	国指定史跡	朝倉町4-9-3 他	15,081㎡
8	前二子古墳	国指定史跡	西大室町 2659 他	11,068㎡
9	中二子古墳	国指定史跡	東大室町五科 1501	16,000㎡
10	後二子古墳	国指定史跡	西大室町内堀 2616-1 他	12,283㎡
11	蛇穴山古墳	国指定史跡	総社町総社 1587-2	1,793㎡
12	宝塔山古墳	国指定史跡	総社町総社1606	2,204㎡
13	女堀	国指定史跡	東大室町・二之宮町・廣土井町	16,732㎡
計				87,982㎡

(4) 文化財パトロール

市内を5地区に分け、各地区に1名の文化財保護指導員を委嘱し、指定文化財を中心に文化財パトロールを実施しました。

文化財パトロールの結果は、月に1～2回程度文化財保護課に報告していただき、管理していく上での情報を伝えていただきました。そのため、緊急事態に対処することができました。

各地区の文化財保護指導員は、下記の表の通りです。



天川二子山古墳



宝塔山古墳



前二子古墳

地区	氏名	住所	電話
中 央	福島 守次	本町	
総社・元総社	関口 淳七	総社町総社	
広瀬・山王	関根 辰男	山王町	
芳賀・南橋	栗原 秀雄	荒牧町	
城 南	森村伊勢雄	富田町	

(平成7年4月1日現在)

(6) 前橋市蚕糸記念館の整備及び管理

この建物は明治45年国立原蚕種製造所の本館として建てられたもので、エントサシス状の玄関の角柱、レンガ積み基礎、高い天井、大窓造、横箱目地板張など明治時代の代表的洋風建物であり、昭和56年県指定重要文化財に指定されました。

翌57年蚕糸記念館として一般公開され、ここには養蚕、製糸関係の品々が展示されており、毎年多くの入館者でにぎわっています。



正面玄関：エントサシス状の角柱

(6) 後 援・共催

秋元歴史まつり

後援、平成7年11月23日

近代化遺産保存キャンペーン

後援、平成7年11月11日～11月12日

2. 整備事業

(1) 歴史散歩道整備事業

平成7年度は、案内・休憩施設としての総社資料館の整備工事及び開館に伴う管理・運営を始め、次の事業を実施しました。

尚、新散歩道（城南歴史散歩道）計画については、基本構想策定に向け、引き続き基礎調査・事業方針等の検討を進めています。

① 総社資料館整備工事並びに管理・運営

散歩道の拠点となる総社資料館（案内・休憩施設）が昨年度に引き続き整備工事（遊歩道整備、排水路浚渫等）及び展示作業を終え、11月23日にオープンしました。総社地区史跡愛好会の方々には常駐していただき、ボランティアガイドとして説明にあたっていただいています。市内外よる3200名を超える多数の方々にご利用いただきました。

② 「第6回秋元歴史まつり」への協力（11月23日）

今年度も各地区における文化財・史跡めぐりのほか、「代々神楽、明神太鼓、青雲太鼓」といった郷土芸能公開、きりえ絵本「天狗岩ものがたり」の発行、「光嚴寺、元景寺、小栗上野介旧宅」における特別展示等多彩な催しが執り行われました。同日の総社資料館の開館式典も花を添え、約20,000名の参加者で賑わいました。



総社資料館開館式典



第6回秋元歴史まつり

年次計画

	昭62～平成6年度	平成7年度	平成8年度以降
資料館	企画・調査 敷地、建物備上 基本構想 基本設計 実施設計 展示設計 整備工事	実施設計 展示設計 整備工事	管理・運営
案内表示	道路路面プレート等設置 (85基)		案内表示板等設置 (100基程度)
散歩マップガイドブック	散歩マップガイドブック作成・増補	イラストマップ原因作成	散歩マップガイドブック作成・増補
推定復原図説明板設置	図版原稿作成説明板設置 (12基)		
便益施設整備	用地借用	用地借用	用地借用等
新散歩道計画	企画・調査	企画・調査	企画・調査・基本構想

(2) 二子山古墳（総社）修復工事

昨年度より前橋市総社町種野にある国指定史跡二子山古墳の崩落箇所をはじめとした遺構・保存施設の修復工事にあっています。今年度は、崩落の著しい後円部及び墳頂部の盛土・植栽、今後の崩落防止のための墳頂部囲柵補修等の工事を実施しました。



二子山古墳（総社）修復状況

(3) 文化財標柱・説明板・案内板等設置工事

平成7年度は、次に挙げる指定文化財・史跡の標柱等の新設、立て替えを実施しました。昨年度に引き続き標柱には御影石、説明板にはステンレス材を使用し、耐久性を高めるよう工夫するとともに、実際に目にするのできないものについては、写真等を挿入するなどの配慮を施しました。

※標柱の新設・立て替え……………5基

- ①市指定重要文化財「大徳寺総門」 (大徳寺)
- ②市指定史跡「新田塚古墳」 (上泉町)
- ③市指定史跡「金冠塚古墳」 (山王町)
- ④市指定重要文化財「酒井重忠画像」 (源英寺)
- ⑤市指定重要文化財「亀里町阿内宿の石幢」 (亀里町阿内宿公民館)

※説明板の新設・立て替え……………5基

- ①国指定天然記念物「岩神の飛石」 (岩神稻荷神社)
- ②市指定史跡「金冠塚古墳」 (山王町)
- ③市指定重要文化財「文政四年天川原村分間絵図」 (文京町)
- ④市指定重要文化財「酒井重忠画像」 (源英寺)
- ⑤市指定重要文化財「慈照院千手観音坐像」 (慈照院)



標柱、説明板の立て替え(金冠塚古墳)

(4) 史跡境界線杭設置工事

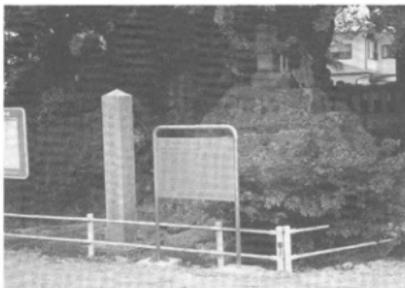
平成7年度は、市指定史跡塩原塚古墳の境界位置を復元しました。



市指定史跡塩原塚古墳



標柱の立て替え(大徳寺総門)



説明板の立て替え(岩神の飛石)



境界杭打設状況

3. 普及事業

(1) 第7回文化財愛護作品コンクール

次代になう子ども達に、文化財愛護の気持ちを育成するために、隔年で市内小中学校から文化財愛護に関わる標語・絵画を募集し、それをもとに翌年文化財愛護ポスターを作成しています。

今年度はコンクールの年して作品を募集したところ、市内小・中学校の皆さんから約1,000点の作品が集まりました。

文化財調査委員等専門の審査員による慎重な審査の結果、下記のように決定しました。

また、市役所1階ロビーにて、平成7年11月27日～12月6日まで、文化財愛護優秀作品展としてこれらの作品を展示いたしました。

〔標語の部〕

市長賞 久保田常紀 桂堂東小5年
 教育長賞 大嶋 秀哉 桂堂小5年
 細谷 仁美 第三中2年
 優秀賞 本間 健介 中央小5年
 笠原 一好 南橋中1年

〔絵画の部〕

市長賞 後関 久昌 上川淵小6年
 教育長賞 大島 慧介 中川小4年
 町田 裕子 南橋中3年
 優秀賞 田村つかさ 嶺小6年
 矢島 千彩 第二中3年



(2) 第23回前橋市郷土芸能大会

・日時 平成7年11月11日(土)
 午後2時～4時

・会場 前橋市民文化会館 小ホール

市内に伝わる郷土芸能を保護・育成し、広く公開することにより、市民文化の向上を図ることを目的に開催しました。

本年度は5団体に公演していただきましたが、一般には公開されていないものもあり、また熱演で市内外の来館者約350人を大いにわかせました。

○公演および出演団体

たごつき唄	(荒口町)
種野稻荷神社神楽	保存会(総社町)
二子山由来和讃	梅花講(東・西大室町)
かつぎ地蔵	保存会(東箱田・後家町)
駒形の祇園	保存会(駒形町)



(3) 第21回前橋市文化財展

・日時 平成7年11月16日(木)～19日(日)
 ・会場 前橋市民文化会館 小展示ホール
 ・テーマ 大室古墳群の実像にせまる

一前二子古墳・中二子古墳・後二子古墳—前橋東部に造成中の大室公園内にあり、史跡整備のため発掘調査を終了した前・中・後二子古墳(国指定史跡)の出土品の展示を中心にして開催しました。

ここでは明治11年の村民の発掘による出土品も含め、全国的にも著名な大型古墳の発掘調査の成果や通輪を中心とする出土品を一堂に集めて公開し、併せて大室公園を市民に紹介する場としました。

わずか4日の間に県内外約1,600人の方に見ていただき、前橋の古墳の歴史と古代の造型美を堪能していただきました。



(4) 第15回文化財普及講座

・日時 平成7年11月19日(日)
 午前9時45分～午後4時半
 ・会場 前橋市民文化会館 第5会議室

現在整備中の大室公園内の前・中・後二子古墳を中心とする第21回文化財展の開催にあわせ、講演会とシンポジウムを実施いたしました。当初の予定人数を大幅に越える150名の方に参加していただきました。

〔講演会〕

「日本の中の前・中・後二子古墳」
 白石太一郎氏(国立歴史民俗博物館)
 「毛野古墳の系譜と大室古墳群」
 梅沢 重昭氏(群馬大学)

〔シンポジウム〕

大室古墳群の実像にせまる
 白石太一郎氏(国立歴史民俗博物館)
 梅沢 重昭氏(群馬大学)
 松島 栄治氏(県文化財保護審議会委員)
 松本 浩一氏(大胡小学校)

井上 唯雄氏（時沢小学校）
 右嶋 和夫氏（県埋蔵文化財調査センター）
 前原 豊（前橋市教育委員会）



(5) 発掘調査現地説明会

- ・中原遺跡（上増田町）平成7年10月4日(木)
 818年に起きた大地震がもたらした洪水で埋没した桑里水田跡。
- ・大屋敷遺跡（総社町）平成7年10月20日(金)
 総社古墳群に近接した古墳時代後期～平安時代の遺跡。

調査地域の住民を対象に現地説明会を開催いたしました。郷土の歴史を学ぶ機会として大変好評でした。

(6) 文化財めぐりパンフレットの増刷

史跡めぐりを通して前橋の歴史と地域の文化を学ぶために活用していただいておりますが、毎年好評をもって迎えられ、今年も残部が少なくなってしまうまい。そこで、全6コース（総社、元総社、城南、広瀬・朝倉、芳賀・桂堂、旧沼田街道沿い）を増刷いたしました。

増刷に当たっては、新しく指定となった文化財をつけ加えるとともに、標語も今年度実施した文化財愛護作品コンクールで受賞した優秀作品に替えました。

(7) 教材開発事業

学校教育や社会教育で活用されることを目的として、2か年で1テーマの歴史・文化財のスライドを作成しています。

今年度は昨年に続き「赤城南麓の古墳文化」（大室古墳群を中心に）18コマと解説書を作成しました。

(8) 各種講座、史跡・文化財めぐりへの講師派遣

地区公民館主催の生涯学習や各種団体の学習、小学校の社会科見学、自治会・老人会の地域の史跡めぐり、研究会の講師など、年間で約30件の依頼がありました。

豊かな前橋の文化財と地域の歴史を理解していただきました。



(9) 文化財資料の貸出し

本年度の文化財資料の貸出しは、市内小学校、県内外の博物館・資料館・出版社など、18件340点でした。主なものは次の通りです。

貸出資料	貸出先
縄文～平安時代土器	東小学校ほか
大室3古墳通輪など	国立歴史民俗博物館ほか
柳久保遺跡墨画土器など	群馬県立歴史博物館ほか
檢峯遺跡奈良三彩	北橋村歴史民俗資料館ほか
芳賀東部団地土器など	群馬県立歴史博物館ほか

(10) 文化財防火デー

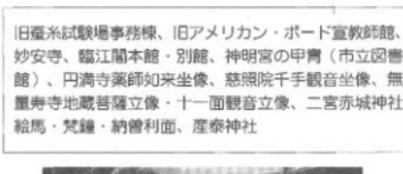
昭和24年1月26日に奈良県法隆寺の金堂壁画が焼失したことをきっかけに、毎年実施されている文化財防火デーは、今年度で第42回目になりました。

今回も前橋市消防本部と協力して、下記の消防演習や指定文化財所在地の立入検査を行いました。

〔消防演習〕 1月26日

総社神社

〔立入検査〕 1月25日



旧菰土試験場事務棟、旧アメリカン・ボード宣教師館、妙安寺、臨江閣本館・別館、神明宮の甲冑（市立図書館）、円満寺薬師如来坐像、慈照院千手観音坐像、無量寿寺地藏菩薩立像・十一面観音立像、二宮赤城神社絵馬・梵鐘・納骨利面、産泰神社



(11) 前橋天神山古墳出土品の複製

3カ年計画の最終年度として、昨年・一昨年度に引き続き、国指定重要文化財前橋天神山古墳出土品の複製品6件14点を委託製作しました。

これで天神山古墳の複製品の総数は12件34点となりました。

本年度に製作したものは次の通りです。

・鉄鍬	8点	・鉄のみ	1点
・鉄斧	1点	・刀子	1点
・やりがんな	2点	・鉄釣針	1点

(12) 文化財保存団体の助成

史跡の清掃や標柱の設置、郷土芸能の継承など、市内で文化財の保護・保存のために活動している次の文化財保存団体に、今年度も補助金の助成をしました。

- ・総社地区史跡愛存会
- ・荒砥史談会
- ・前橋市郷土芸能連絡協議会

4. 文化財調査事業

文化財保護課では、市民の皆様からの要望にお応えして、各種文化財調査を行っております。平成7年度に実施した調査結果の一部を報告します。

産泰神社天井絵墨書等調査

前橋市下大屋町に所在する産泰神社は、建物と敷地が平成6年3月25日に県指定重要文化財に指定されました。平成7年度から3か年計画で保存修理事業を実施しています。

屋根の解体に伴い、天井絵の裏から墨書が見つかったため、調査を行いました。

拝殿天井絵裏墨書

絵師
るノ六 紅
江戸下谷
壽笑亭泉一重 正面四拾八枚
當村増田村
玉可 齋秀雲書 阿脇六拾四枚
金子拾両也

當国同郡増田住人
文化十三年
久川恵水
六月十九日より八月十九日迄
阿脇六拾四枚
をノ八
かの七
江戸本郷
壽笑亭一重
時文化十三年
子八月大吉日
三代目
鯉登豊前守
天井張人足
前橋町町
高橋定八
當所
八木原十七八
増田
久川恵水 (永力)
當所
八木原七藏
漆久保
角田源太郎

居候組
十七八
定八
恵七
七九郎
源兵衛

六助
(大五郎 力)
右七人数二而
張申候
文化十三丙子閏八月十日
を四
正面四拾八枚
時文化十二乙亥歲
六月ヨリ
八月迄
壽笑亭

□一寸一社中
壽笑亭
□松之処菅原一重
謹画
へノ五

幣殿天井画墨書

六十才秋絵画
上増田村住人 精美園恵水

い 桐壺
ろ 松風
は 胡蝶
ぬ 薄雲
な 朝顔
り 帚木

拝殿より見つかった棟札

塗師棟梁
信州高井郡中野村
梶川一松清房
當所まへはし左田口村
脇 関口清吾良
同国佐位郡伊勢崎本町
木村友八良
勢州渡会郡野尻岡
鹿爪兵輔
當所勢多郡上増田村
久川永水
同国佐位郡湧名在
荒井常造
同国同郡茂呂
八木原十七八
"
木村理兵衛
"
八木原武兵衛
當所伊勢崎西町
西川伴輔
"
柴田真兵衛

武蔵国榛沢郡中瀬伊勢守
川田守藩

彩色屋
"
同苗永治良
文化十一甲戌年
四月ヨリ九月迄
神主從五位
藤原朝臣
泰富

この、棟札は塗工事全体の棟札と考えられます。
なお、幣殿の天井画については、群馬工業高等専門学校の大島田紀夫助教が調査を行い、群馬高専レビュー平成7年度第14号に発表しました。
その結果をお送りいただきましたので、紹介します。
この絵は、平安時代以来大和絵の代表的な題材である源氏絵である。幣殿天井に30枚、おおよそ55cm×58cmの枠に収められている。源氏物語54帖のうち、北東の本殿側角の「桐壺」から始まり、南西の拝殿側角の「藤袴」まで30帖から一場面を選んで描いたものである。20帖「朝顔」と21帖「少女」の順番が逆になっているが、それ以外は帖数どおりにならべられている。

5. 埋蔵文化財調査事業

本年度の調査をふりかえって

本課の2係の一つ、埋蔵文化財係の業務の中で一番の比重を占めているのが埋蔵文化財の調査である。調査には表面調査、試掘調査、発掘調査などがあるが、場合によっては建設工事等の施工時に行う立会調査も行われる。平成7年度はこれらの調査を、合わせて68件行った。

表面調査は試掘調査と並び、建設工事等に併い、当該場所の埋蔵文化財の有無を確認するもので、過去の調査に基づく遺跡分布状況等から遺跡の可能性はさほど高くないが、開発面積等を考慮し、一応現地の状況を調査する必要があった17件について行った。現地踏査で、地形や遺物分布状況の観察が主になるが、必要に応じて手作業による掘削等で地層の状況を確認して判断し、その結果2件については埋蔵文化財の存在の可能性が認められた。

試掘調査は平成3年度から国、県の補助金を得て公費で行っている。表面調査より可能性が高い場所について実施し、25件中9件について埋蔵文化財の存在を確認した。そのうちの3件については保存可能（1件は一部発掘調査）と判断されたが、残りの6件は発掘調査することになり、2件は年度中に終了した。試掘調査は埋蔵文化財の有無を確認すると同時に、その種別や範囲など、後の発掘調査の基礎資料を得るのに有効な手段である。

発掘調査は21件で、赤城火山斜面では大室公園、広瀬川低地帯では上増田工業団地を調査したが、その他はほとんどが前橋台地で行われた。

大室公園造成地内では、史跡整備に伴って小二子古墳の発掘調査を行った。他の調査がすべて建設等の工事に先立つものであり、調査後は消滅してしまうものに対し、

保存整備を施し古墳をよみがえらせるためのものであるところが、他の調査と異なるところである。また、民家移築ゾーンの調査では2万8千年前の石器が発見され、前橋の旧石器時代の起源がさかのぼる結果となった。

約20ヘクタールの上増田工業団地造成地のほぼ全域で、818年の洪水で埋没した条里制水田跡を検出した中原遺跡群の調査は、平成3年度の試掘調査に始まり5年間続いた発掘調査に終了符を打った。ちなみに、今年度は民間調査機関とともに3万平方メートルを調査した。

その他、いよいよ方墳であることがはっきりした愛宕山古墳の調査、埋葬と石標がセットで出土した大屋敷遺跡の調査、個人住宅建設に伴う不二山古墳の調査等々、例年になく多くの発掘調査が行われたが、個々については次の項で述べるのでここでは省略する。

整理事業としては、最終年度だった芳賀団地遺跡群（昭和48～55年度発掘調査）の事業が挙げられるが、今年度実施した各発掘調査についても現地調査の後引き続き報告書刊行に向けて整理作業を行った。なお、刊行した報告書については別表のとおりである。

発掘調査について市民の皆さんに知っていただくことが目的の遺跡の現地説明会は、本年度は中原遺跡群と大屋敷遺跡の発掘調査現場で行われた。両説明会とも好天に恵まれ、それぞれ120人、250人の見学者があった。また、秋に開催された文化財展では、大室公園内の国指定史跡古墳の発掘成果に見学者の熱い視線が注がれていた。

以上のように、前橋の古代史を塗り替えるような発見、埋蔵文化財の分布状況の把握など、今年度も貴重な資料を収集することができた。また、遺跡の現地説明会や文化財展を通して、市民の皆さんに対する埋蔵文化財の普及活動も、十分行うことができた。これらを今後の文化財保護行政に役立てていきたい。



岩神小学校児童による体験発掘（右も）



平成7年度埋蔵文化財発掘調査一覧表

番号	遺跡コード	遺 跡 名	発 見 地	検 出 品	備 考
①		小・子古墳	西大塚町142	尖形土埴輪 291, 73ml	平7, 7, 21~7, 10, 17
②	7E11	内堀遺跡跡	西大塚町	公土埴輪 3,450ml	平7, 4, 25~7, 11, 1
③	7G12	文殊山古墳	山王町77~5分	埴輪埴輪 75ml	平7, 5, 16~7, 5, 22
④	7A49	野崎遺跡跡	野崎町1211-5分	埴輪埴輪 185ml	平7, 5, 29~7, 8, 2
⑤	7A51	村田遺跡跡	細田町4丁目42-1分	マシヨン土埴輪 700ml	平7, 6, 12
⑥	7H17	下二山古墳跡	文京町三丁目152-2	住宅埴輪 396ml	平7, 4, 27
⑦	7H18	木二山古墳跡	文京町三丁目149-2分	住宅埴輪 486ml	平7, 5, 23~7, 5, 30
⑧	7H20	六塚下宮土埴輪	六塚町653分	区画整理 35ml	平8, 1, 30~8, 1, 31
⑨	7G13	丹野遺跡跡	橋本町101分	区画整理 396ml	平8, 2, 28~8, 3, 30
⑩	7H21	天川二山古墳跡	文京町三丁目	区画整理 35ml	平8, 3, 5~8, 3, 16
⑪	7D12	堀之下女塚跡	川本町4分	水埴輪 501ml	平7, 5, 2~7, 6, 27
⑫	7H15	赤堀遺跡跡	大手町1丁目地内	遺跡調査 946ml	平7, 4, 19~7, 12, 18
⑬	7A41	古土埴輪	大塚町1丁目3-23分	住宅埴輪 1,355ml	平8, 2, 8~8, 3, 21
⑭	7H19	野崎遺跡跡(住居)	野崎町1211-5分	埴輪埴輪 396ml	平7, 10, 9
⑮	7A72	浅野町古墳	浅野町355-1兼売	遺跡調査 29ml	平7, 4, 5~7, 4, 24
⑯	7A60	大塚町IV遺跡	船社町18541-1分	区画整理 2,425ml	平7, 5, 10~7, 11, 30
⑰	7E-3	中野遺跡跡(住)	上野町1950分	工業用土埴輪 20,600ml	平7, 5, 1~7, 10, 6
⑱	7E-5	中野遺跡跡(住)	上野町2131分	工業用土埴輪 10,350ml	平7, 6, 9~7, 8, 22
⑳	7G19	野田遺跡跡	船本町305分	遺跡調査 2,500ml	平7, 11, 15~7, 12, 8
㉑	7A73	原町遺跡跡	赤塚町2578-8分	福祉施設建設 588ml	平7, 6, 5~7, 8, 23
㉒	7A74	船社町山遺跡跡	船社町1762分	中学校建設 5,600ml	平9, 11~7, 12, 22

平成7年度表面調査一覧表

番号	調査地	調査面積㎡	調査原因	調査年月日	調査結果	備 考
1	天目山町3-29-16	1,129	分譲住宅建設	7, 4, 14	無	民営
2	下堀川野字跡跡1分	1,879	分譲住宅建設	7, 4, 20	無	民営
3	一之宮町 野井地内	3,542	敷地内水埴輪	7, 6, 22	有	農工商管理
4	野井155	121	無断中継機建設	7, 6, 19	無	民営
5	青柳野山王	137	遮断機設置建設	7, 6, 19	無	民営
6	北代田字跡跡168-70分	748	マンション建設	7, 6, 19	無	民営
7	浅野1-22-1	974	マンション建設	7, 6, 29	無	民営
8	原町1-8-9分	1,175	水埴輪	7, 7, 25	無	民営
9	浅野1-小坂町地内	27,004	道路建設	7, 9, 7	有	農工商管理
10	下大塚野字跡跡6分	5,597	老人保健施設建設	7, 10, 4	無	民営
11	上堀川野字跡跡1分	17,500	土留	7, 10, 25	無	前住士地改良事務所
12	上堀川野字跡跡	4,175	下土留	7, 12, 15	無	農工商管理
13	船本町跡跡1分	2,144	土留、倉庫建設	7, 12, 15	無	民営
14	西大塚町313-1分	7,396	産業用施設建設	8, 1, 12	無	民営
15	日吉町4-388-10分	1,460	マンション建設	8, 2, 20	無	民営
16	文京町3-142-1分	1,309	マンション建設	8, 2, 20	有	農工商管理
17	北代田字跡跡152分	9,276	マンション建設	8, 2, 28	無	民営
18	一之宮町地内(立売)		防排水構造物	8, 2, 13	無	消防本部
19	小塚町地内(立売)		防排水構造物	8, 2, 15	無	消防本部
20	原町地内(立売)		防排水構造物	8, 2, 15	無	消防本部
21	浅野町1丁目地内(立売)		防排水構造物	8, 2, 29	無	消防本部
22	浅野町地内(立売)		道路工事	8, 3, 11	無	土木課

平成7年度試掘調査一覧表

番号	調査地	調査面積㎡	調査原因	調査年月日	調査結果	備 考
1	元麻布町野字跡跡13-4	474	地内造成	7, 5, 17	有	民営 発掘調査4(発掘跡跡1)
2	北新町2-161-2	243	店舗建設	7, 5, 25	無	民営
3	元麻布町野字跡跡	71,700	300	7, 5, 26-6, 6	有	区画整理課 第二 発掘調査
4	青柳野山王跡跡17M-5	300	マンション建設	7, 6, 2	有	農工商管理
5	小塚町野字跡跡102-5	4,800	老人保健施設	7, 7, 12	無	民営
6	大塚町1-3-2分	3,399	倉庫建設	7, 8, 2	有	グランドコム(山王古墳)発掘調査1区一部保存
7	浅野町173-38分	2,076	倉庫(ヤマト)建設	7, 8, 4	無	民営
8	船社町野字跡跡	40,000	学校建設	7, 8, 11	有	教育委員会(船社町山遺跡跡)発掘調査3(船社町山)
9	浅野町460-1	1,785	学生生活施設	7, 9, 12	無	市立東葉小 農工商管理
10	浅野町1-9-1分	1,348	マンション建設	7, 9, 19	有	民営 保存 発掘調査 7分遺跡
11	西新町723-1	1,348	マンション建設	7, 10, 12	無	民営
12	日吉町1-151-2	2,689	住宅建設	7, 10, 26	無	民営 保存
13	浅野町155-5分	3,305	水埴輪	7, 10, 30	無	水田課
14	新田町字跡跡跡1242-1分	1,000	宅地造成	7, 11, 9	無	民営
15	元麻布町野字跡跡1	860	土留	7, 11, 10	無	農工商管理(野井町跡跡)
16	新田町跡跡跡1分	4,000	道路建設	7, 11, 13	有	民営
17	浅野町跡跡跡2	1,307	住宅建設	7, 11, 24	有	教育委員会(船社町山遺跡跡)発掘調査3(船社町山)
18	青柳野山王跡跡跡1762-2	8,909	住宅建設	7, 11, 29	無	民営
19	浅野町跡跡跡1	14,758	道路建設	7, 11, 30, 12, 1	有	土木課(浅野町跡跡跡)発掘調査予定
20	六甲町地内	2,430	倉庫建設	7, 12, 7, 8	有	区画整理課(六甲町跡跡跡)発掘調査予定 遺跡調査
21	小塚町跡跡跡	69,159	学校建設	7, 12, 12	無	民営
22	船社町跡跡跡1	56,248	倉庫建設	7, 12, 20	無	民営
23	浅野町跡跡跡1	2,059	土留	8, 1, 11	無	民営
24	上堀川野字跡跡跡233分	4,700	専断建設	8, 1, 24	無	民営
25	六甲町地内	4,422	区画整理	8, 3, 6, 6	有	区画整理課(六甲町跡跡跡)発掘調査予定

平成7年度整理作業一覧表

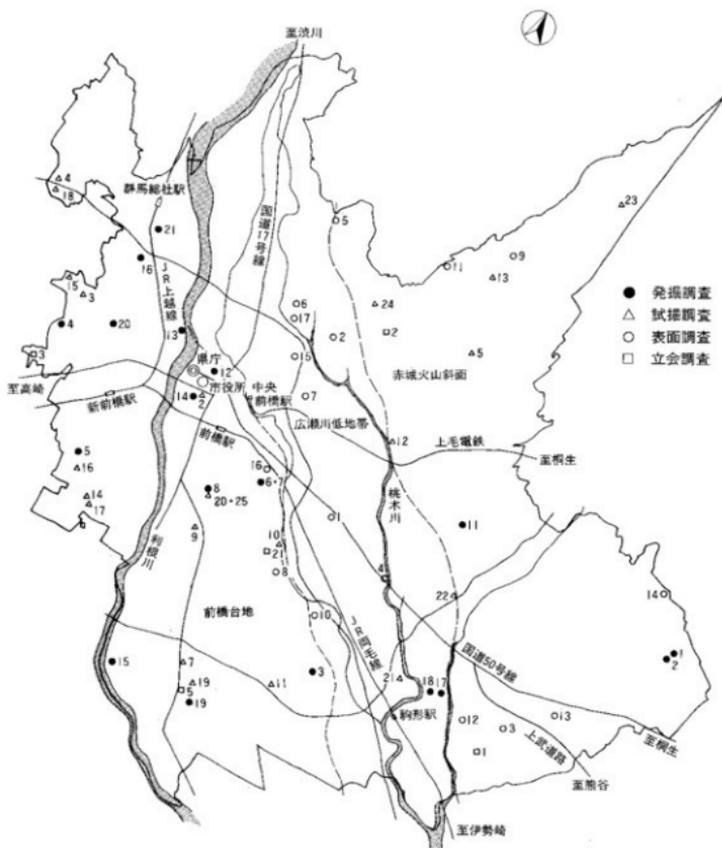
調査地	整理原因	整理期間	調査期間	調査内容	備考
芳賀山遺跡跡跡	教育委員会 芳賀山、前田、船	平7, 4, 1~8, 3, 29	昭和62, 6, 7	縄文時代住居、土坑、その他、中世まで「番付」	
(芳賀山遺跡跡跡)	大塚町		55, 3, 31		

平成7年度報告書一覧表

番号	報告書名	遺跡名	報告書	発行年月日	備考
1	内堀遺跡跡	内堀遺跡跡(内堀遺跡跡)	教育委員会	8, 3, 25	本年度調査
2	市内遺跡跡跡跡跡跡	木二山古墳跡	教育委員会	8, 3, 30	
3	芳賀山遺跡跡跡跡跡跡	芳賀山遺跡跡跡跡跡跡	教育委員会	8, 3, 30	昭和62-75年度調査
4	文殊山古墳	文殊山古墳	教育委員会	8, 3, 25	本年度調査
5	野崎遺跡跡	野崎遺跡跡	教育委員会	8, 3, 25	
6	村西遺跡跡	村西遺跡跡	教育委員会	8, 3, 25	
7	大塚町遺跡跡	大塚町遺跡跡	埋蔵文化財調査委員会	8, 3, 25	
8	中野遺跡跡	中野遺跡跡	埋蔵文化財調査委員会	8, 3, 25	
9	中野遺跡跡跡跡跡跡	中野遺跡跡跡跡跡跡	埋蔵文化財調査委員会	8, 3, 25	委託
10	原町遺跡跡	原町遺跡跡	埋蔵文化財調査委員会	8, 3, 25	本年度調査
11	船社町山遺跡跡	船社町山遺跡跡	埋蔵文化財調査委員会	8, 3, 25	
12	西田遺跡跡	西田遺跡跡	埋蔵文化財調査委員会	8, 3, 25	

平成7年度現地説明会等一覧表

調査地	調査の所在地(展示会場)	開催年月日	主催・共催	内 容
中央集約	上野田町	9月、10、4	教育委員会	82年の地震に伴う洪水の罹情や復旧した多摩川水田跡の公開・説明 見学者120人
大塚郡議	駒形市駒形	9月、10、20	*	罹情等の遺物の公開・説明、遺物の展示 見学者250名



1. 小二子古墳



遺跡位置図(国土地理院5万分の1 前橋)



事業名 大室公園史跡整備事業
所在地 前橋市西大室町2142 他
調査期間 7年7月21日～7年10月31日
担当者 前原 豊・新井真典
調査面積 281.79㎡(範囲確認調査)
調査の経緯 本市では、大室3子古墳が所在する大室地区に36.9haの総合公園建設を計画した。公園用地内には史跡が存在するため、史跡整備が不可欠となり、史跡整備委員会が組織され、「史跡整備基本構想」が策定された。今回の範囲確認調査はこの構想に基づき、史跡の保護・活用・研究面の資料を収集し、史跡整備の基礎資料を得ることを目的としている。なお、調査は平成3年度に後二子古墳から開始された。平成4年度に前二子古墳、平成5・6年度の2カ年にわたって中二子古墳を実施した。小二子古墳の調査は平成7・8年度の2カ年計画である。
立地 本市の東端、赤城山南麓の丘陵性地に位置し、北に粕川村、東に赤堀町が隣接する。公園内には、大室3子古墳をはじめ、豪族館跡である梅木遺跡等多数存在する。近接する多田山丘陵には有名な赤堀茶臼山古墳が存在する。
調査成果 全長約43.5mの2段に築成さ

れた前方後円墳である。周堀は全周する。後円部の周堀は、広く造られるのに対して前方部は狭く浅い。下段の墳丘平坦面は、旧地表面を利用して幅広く造られる。上段の墳丘は、盛土により形成され後円部のほうが前方部より高い。墳丘長約36m、後円部径約28m、前方部幅17mである。

石室は、横穴式石室であることが確認できたが、明治時代に大半が壊され、割った石が詰められた状態である。石室の主軸は、墳丘に対して大きく西に振れている。

埴輪は形象埴輪、朝顔形円筒埴輪、普通円筒埴輪が出土した。形象埴輪は、人物、家、馬、駒、麝、唐、大刀、鬘が確認された。人物を中心とした一群は、鞍部に樹立され、器財埴輪の一群は後円墳頂部に設置されたことが推定される。円筒埴輪は、下段平坦面から数本検出された。また、上段墳丘斜面からも多数出土していることから、墳頂部にも設置されていた。

石室前面の東側から土師器杯形土器数個体、須恵器提瓶1個体が出土した。なお、石室外からガラス小玉、耳環、弓の具片が出土している。

古墳の構築時期は出土した土師器杯から6世紀後半に築造されたと推定される。

2. 内堀遺跡群 (内堀遺跡)



遺跡位置図(国土地理院5万分の1 前橋)



事業名 大室公園整備事業(公園緑地課)
所在地 前橋市西大室町2510 他
調査期間 7年4月25日から7年11月1日
担当者 前原 豊・新井真典
調査面積 3500㎡
調査の経緯 公園整備事業に先立ち、公園予定地の埋蔵文化財を調査し、公園設計の基礎資料と記録保存を目的とし、公園緑地課より依頼があり発掘調査に至った。昭和62年度に始まり、本年度で9年目になる。
立地 前橋市の東端、赤城山南麓の丘陵地に位置し、北は粕川村、東に赤堀町が隣接する。周辺には大室3子古墳をはじめ、上堀遺跡、梅木遺跡、赤堀茶臼山古墳などがある。
旧石器時代 多から22000～25000年前に降下したA層の下位から2ブロック石器群が検出された。
南に位置するA区は、局部磨製石斧、打製石斧、ナイフ形石器、削器、石核、剥片で構成され、長野県和田峠産と推定される良質の黒曜石を主体にした110点の石器が出土した。一方、東のB区は、石刃技法を用い、ナイフ形石器、敲石、台石、剥片で構成され、武尊山麓産と推定される黒色安山岩を主体にした25点の石器が検出された。

A・Bのブロックとも同時期に形成された生活跡と推定されるが、使用する石材や石器製作技法が違っていることから別集団が残した生活跡の可能性が高い。

また、A区で1kgを超える黒曜石の量は、利根川以東での黒曜石の消費遺跡として際立っている。

縄文時代 前期前半の住居址4軒と竪穴状遺構2基、土坑9個が検出された。包含層の遺物は縄文早期から後期までの遺物が検出されたが、北白河下層式土器が数片出土している点は、特筆される。

弥生時代 なし。

古墳時代 土坑1基

平安時代以降 なし。

緊急調査(電気・水道埋設ケーブル)

旧石器時代 検出されない。

縄文時代 中期終末から後期前半の土器が出土した。

弥生時代 検出されない。

古墳時代 前期の住居址5軒と後期の住居址2軒が検出された。このうち後期の住居址は竈高1式期のものであり、竈の構築に鳥居状に石材を用いたものであった。

平安時代 818年の大地震によって形成された地割れが1条検出された。

3. 文珠山古墳



遺跡位置図（国土地理院5万分の1 前橋）



事業名 民間開発（擁壁建設）
所在地 前橋市山王町77-5 他
調査期間 7年5月16日～22日
担当者 園部守央・大山知久
調査面積 70㎡

調査の経緯 禅堂寺所有の墓地（文珠山古墳）の擁壁建設に先立ち、開発者の現物貸与を受けて前橋市教育委員会が発掘調査を行ったものである。

立地 本遺跡は、市庁舎のある市中心部から南東約7kmの山王町で主要地方道高崎・駒形線と同陸岡・大胡線の交差点の北に位置する。朝倉町から広瀬町、山王町に及び一大古墳群の南端にあたる。

調査概要 擁壁建設によって掘削を受ける部分に限ったため古墳墳丘の裾部分のみの調査となった。本古墳は墳丘斜面に河原石を用いた葺石をもち、その最下段に平坦面をもっている。葺石の大きさには規則性が見られた。斜面最下段に大型の根石を据え、そこから上に向かって人頭大の石、また根石の下の平坦面には拳大のものが敷き込まれていた。今回の調査では墳丘構築の盛土は検出できなかったが、周堤の下部埋土からFAとみられる火山灰層が、また断ち割り調査では浅間C軽石を含む地層が認

められた。遺物は石田川式土器と壺形土器が出土した。その中には二重口縁の高部穿孔のものが含まれている。以上の状況から、古墳構築時期は5世紀初頭と考えられる。

4. 弥勒II遺跡



遺跡位置図（国土地理院5万分の1 前橋）



事業名 宅地造成事業
所在地 前橋市元総社町1213-4
調査期間 平成7年5月29日～6月2日
担当者 戸所慎康・大山知久・吉田聖二
調査面積 100㎡

調査の経緯 開発事業者の確認調査依頼を受け、平成7年5月17日に試掘調査を行った。その結果、古墳時代から奈良・平安時代の住居土構構が確認されたため、開発に先だって、記録保存のための発掘調査を前橋市埋蔵文化財発掘調査団が実施することとなった。

立地 前橋市街地の西方約3kmに位置する。横名山東南麓に広がる相馬ヶ原原状地の端の前橋台地上に立地する。

本地域は古くから上野国府推定地とされており、周辺には、総社古墳群・国分寺・国分尼寺・山王庵寺・総社神社・善海城址・八日市城址などが存在し、古墳時代から中世・近世初頭に及び政治・文化の中核地域であったことを窺わせる。

平成元年度に調査をした「弥勒遺跡」の北側に位置し、弥勒遺跡の北側の範囲を拡大した。

古墳時代 東壁に竈を有する住居址3軒と土坑1基を検出した。

遺物は埴高式土器を主とした、古墳時代後期に位置付けられるものが中心であり、坏や甕などが多く出土した。2号住居址は東壁中央部に竈を造り、袖石は左右とも凝灰岩を使用。3号住居址は東壁中央部やや南よりに竈を造る。4号住居址は東壁北よりに竈を造り、1号住居址に切られる。

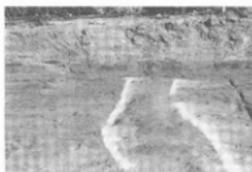
奈良・平安時代 住居址1軒、土坑1基を検出した。

1号住居址は、東壁中央部やや南よりに竈を造り、袖石を使用。右は河原石3個、左は凝灰岩を使用。支柱石は凝灰岩を使用。羽釜や布目瓦が出土した。

1号土坑からは内黒高台皿が2個出土した。そのうちの1個は、口縁に5個の突起をもつ輪花段皿である。輪花段皿は灰釉陶器のそれを模倣したもので、国府や国分寺等の須られた遺跡から出土している貴重な遺物である。作られた時期は10世紀中葉以降である。

その他 遺物が少なく、土層からも時代決定ができなかった土坑2基を検出した。遺構外からも土師器や須恵器の坏が出土した。

5. 村西遺跡



遺跡位置図（国土地理院5万分の1 前橋）



事業名 民間開発（マンション建設）
所在地 前橋市前箱田町142-2 他
調査期間 平成7年6月12日～13日
担当者 大山知久・園部守央
調査面積 700㎡

調査の経緯 開発地の一部は以前に調査済で水田址を検出していることから、今回は未調査部分、すなわち、マンション建設予定部分及びその西のつけかえ計画のある道路部分について本調査を実施した。

工期日程との調整や梅雨時期で天候不順等、いくつかの条件の中で、平成7年6月12日および13日に全調査を終了した。

立地 前橋市街地の南西約9キロメートルにあり、遺跡地周辺は標高約100メートルでほぼ平坦である。農業は水田耕作が中心だが、近年住宅建築がさかんで、市街化への家数が増えている。また付近では五反田II遺跡等の水田遺跡が検出されている。

遺跡の概要 浅間日軽石下に水田跡を確認した。今回の発掘調査では、地表下約60～70cmに浅間日軽石を厚さ約5cmでみとめた。その下に平安時代水田址を検出した。畦畔はそれぞれ直線状で、ほぼ東西及び南北に走る。畦畔の規模は基底部分で約40cmを測り比高約3～9cmであった。水田面はほぼ平坦である。また検出した遺物はなかった。

6. 不二山古墳Ⅰ・Ⅱ遺跡



遺跡位置図（国土地理院5万分の1 前橋）



事業名 個人専用住宅建設に伴う発掘調査
所在地 前橋市文京町三丁目152-2（I遺跡）
前橋市文京町三丁目149-2、150-4（II遺跡）
調査期間 平成7年4月27日（I）、5月23・24（II）
担当者 園部守央、井野誠一、大山知久
調査面積 330㎡（I）、949㎡（II）

調査の経緯 不二山古墳Ⅰ・Ⅱ遺跡は、個人専用住宅建設に伴う事前の発掘調査であるが、それぞれ、別の依頼による調査であるが、同一古墳の周総想定域の調査であり、一括で記載を行う。なお、発掘調査は国・県補助事業の「市内遺跡」で実施した。

立地 調査地の不二山古墳は前橋市街地から広瀬・朝倉につらなる旧利根川右岸の河岸段丘に位置している。この高まりは古墳群が形成されている。不二山古墳の周辺も古墳がいくつか記録に残されているが、現在周辺に残されているものは、天川二子山古墳とこの不二山古墳の2基である。

調査の概要

I遺跡、II遺跡ともに周総の想定域のため、トレンチを設定して周総の調査を実施

した。I遺跡では、調査地が人家の間に位置しており、早くから周辺が発掘されていたこともあり、墳丘の立ち上がりが認められたのみであった。

II遺跡では、4本のトレンチを設定して調査を行った。各トレンチでの状況はまちまちであったが、堀の土とみられる日軽石を含む黒色土の層が6地点で確認され、その状況からこの土層が周総の埋め土と認められる。土の深さは残された地点で10～30cmと非常に浅く、検出されなかった地点では耕作等によって失われたものと見られる。

また、この黒色土の検出状況から周総が二重であることが想定される。

なお、この古墳周総については、盛り土を行い現状保存の方で工事施工されることになった。

7. 六供下堂木遺跡



遺跡位置図（国土地理院5万分の1 前橋）



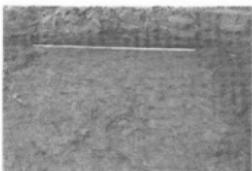
事業名 道路整備工事（区画整理事業）
所在地 前橋市六供町下堂木地内
調査期間 平成8年1月30日31日
調査担当者 井野誠一、大山知久、斉藤仁志、坂口好孝
調査面積 30㎡

調査の経緯 平成8年11月に調査地を含む工事計画の連絡がある。協議の結果、調査地を含む一帯が遺跡の可能性が高く、事前に確認調査を実施することになった。確認調査の結果、調査地の南端に住居の跡と、水田のあぜが検出された。協議の結果、記録保存に決まり、1月30・31日に発掘調査を実施した。

立地 前橋市南部の水田跡の想定地域に位置し、周辺には市の碑という条里制にかかわると考えられる地名もある。また、ここは堂木という寺跡の存在の考えられる地名であり、遺物の散布も見られた。

調査の状況 検出された住居跡は3軒で、重複して発見された。広いあぜになっていたところの下に位置していた。住居跡の検出された地点の南はB軽石下の水田が一面に広がり、東西方向のあぜが調査地内で一箇所検出された。遺跡の状況から見て一帯に水田跡が存在することが確実である。

8. 井戸南遺跡



遺跡位置図（国土地理院5万分の1 前橋）



事業名 道路改良工事
所在地 前橋市横手町367番地 他
調査期間 平成8年2月28日から3月27日まで
担当者 井野誠一、大山知久
調査面積 100㎡

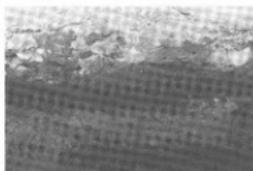
調査の経緯 平成7年11月に調査地での工事計画の連絡がある。工事予定地の西には7年度に周辺の調査を行った浅間神社古墳があり、東は水田跡の想定地であり調査実施の協議を行った。

立地 調査地は前橋市南部の水田想定地内にあるが、旧集落の中には古墳も残っており、遺物の散布も見られる。

調査の状況 水田跡は、盛り土40cm下に耕作土が60cmみられ、耕作土の下よりB軽石が検出された。その下に水田の耕土が3～5cmあり、その下は灰白色粘質土の層になっていた。水田のあぜはB軽石の面の高さ2～5cmで認められた。あぜはおおよそ南西から北東へ方向であったが、検出は一部にどまり、全体の状況の把握には至らなかった。あぜの間隔は12～14mで、2.8mと狭い地点もある。この狭い地点の西側のあぜは幅が1～1.2mあり、大あぜの可能性もある。周辺は同様の水田の検出さ

れる可能性がある。

9. 天川二子山古墳



遺跡位置図（国土地理院5万分の1 前橋）



事業名 下水管布設工事
所在地 前橋市文京町三丁目地内
調査期間 平成8年3月5日から3月16日
担当者 井築誠一・大山知久
調査面積 96㎡

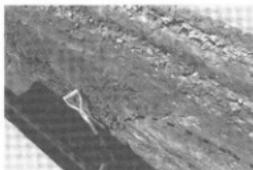
調査の経緯 本調査地は天川二子山古墳の北に位置し、古墳周囲の想定域内に当たる。平成7年12月に工事実施の連絡があり、協議の結果記録保存のための発掘調査を実施することとなった。

立地 天川二子山古墳は、旧利根川の右岸に当たる広瀬・朝倉古墳群の西端に位置する。6世紀築造といわれる前方後円墳で、主体部は未調査であるが、横穴式の石室と言われており、周堀も西の県立文書館の建設にかかわる発掘調査で一部確認されている。古墳の東と南は調査を実施した（二子山前Ⅳ）が古墳の礎は確認されていない。

調査の概要 工事は、古墳の北西から東に進み、途中で北におれる。北西端は、文書館での調査の際の堀の延長線上に位置するが、以前の工事でマンホールが設置されており明確な堀の立ち上がりはつかめなかったが、マンホール東は古墳の堀の埋土が確認された。埋土は黒色土で、深さは最大45cm、上面に日軽石の層やブロックが認めら

れた。日軽石の層から上は水平の堆積になっており、日軽石降下時には埋まらずに埋まっていたものと見られる。堀の土は工事地点が北に折れてから12.3mの地点で立ち上がりしており、この位置は、文書館での調査の古墳の堀の位置の想定にほぼ一致する。

10. 堀之下女堀Ⅱ遺跡



遺跡位置図（国土地理院5万分の1 前橋）



事業名 水道管布設工事
所在地 前橋市江木町4番地地先
調査期間 平成7年6月7日から27日
担当者 井野誠一・大山知久
調査面積 501㎡

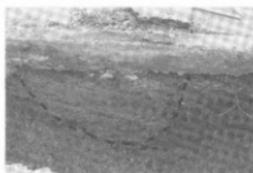
調査の経緯 平成7年4月に調査地の工事計画の連絡がある。工事予定地の南端で「女堀」と重複することから、協議を行い、記録保存の発掘調査実施が決まる。

立地 旧利根川左岸の赤城山南面の標高95～96m付近の地点にあたる。付近には女堀とみられる地割が残っており、その地割と女堀の遺構との整合性の確か度を確かめることができた。

調査の状況 前橋青果市場の前の道を東に進み、江木町に入って、角にスタンドのある信号を南に60m下がった地点に女堀が位置する。墓地の北の東西に長い地割が女堀である。地層前面の調査によると、堀の北の立ち上がりは地割の北端より2.7mの地点で、ロームを掘り込んで作られている。ただし、現在の地割まではロームと黒色土の混土層が堆積しているのが認められ、北の土手の土を崩したものを埋めたとも見られる。その南は黒色土が埋まっており、北端は埋めても、堀は狭いながら残っていた

と見られる。また、地割の中央部に堀の層があり、最近までの流路の可能性がある。南側は墓地の北端でロームが少し高まった程度で、明確な状況はつかめなかったが、女堀の南の立ち上がりで見られる。この調査の結果から「女堀」の地割はその確度が高いが、堀之下女堀Ⅱ遺跡とこのⅡ遺跡の両方で見られたように、堀の北側は土手の土を崩して埋めたとも見られる状況があり、地割以上に女堀が広がったことがわかった。遺物の検出は見られなかった。

11. 前橋城郡代所遺跡



遺跡位置図（国土地理院5万分の1 前橋）



事業名 道路改良工事・電線地中化工事・歩道整備工事

所在地 前橋市本町・千代田町・大手町

調査期間 平成7年6月27日から12月18日

担当者 井野誠一、大山知久

調査面積 2,700㎡

調査の経緯 平成6年5月11日に事業課の土木課より事業計画の連絡があり、協議を行う。事業地が前橋城の遺跡に重なるため、発掘調査について協議を行った。平成6年12月に試掘調査を実施したところ、事業地が以前の道路工事及び側溝の工事等で壊されていて、遺跡の残存状況が不良であることが判明した。そこで、調査を事業実施に並行したものに変更して、記録保存をはかることとした。

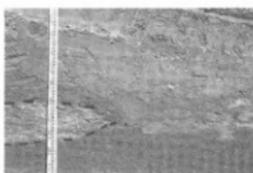
調査の結果 開発予定地は、再築前橋城の郡代所や坪呂岩門に重なる位置にあるが、調査の結果検出されたのは、郡代所西の区画と見られる溝及び坪呂岩門の基盤の土の跡であった。郡代所西の溝は、日本銀行と隣の住友生命ビルの間で、日本銀行側に検出された。検出面で幅3.2m、深さ1.45mの浅い砲型の断面であった。この溝の続きは北側の層が新しい工事で壊されていてつかめなかったため、伸びるかどうかは不明

である。坪呂岩門の基盤の土は、前橋市作成の「復元前橋城」の坪呂岩門の位置に合致する。この地点は地形を詳細に観察すると門の様子をつかむことができる。

上面は崩されていたが、土堤と堀の位置が確認され、堀の底（地表下130cm）には玉石が認められた。

遺物としては、磁器片が若干出土したのみである。

12. 王山古墳Ⅱ遺跡



遺跡位置図（国土地理院5万分の1 前橋）



事業名 立体駐車場建設

所在地 前橋市大塚町一丁目3番2、3、4、5

調査期間 平成8年3月21日22日

担当者 井野誠一、大山知久

調査面積 1,355㎡

調査の経緯 平成7年7月18日に王山古墳東側の本調査地での工事計画の連絡がある。調査が王山古墳の墳丘の前方部の一部と、東に存在した古墳にあたるため、事前に確認調査を行い状況の確認を行うこととした。8月1日に確認調査を行ったところ、王山古墳の墳丘と東の古墳の堀を確認した。工事計画によれば、工事の掘削予定地は古墳の堀の一部に重なるものの、墳丘を掘削するおそれがないため、墳丘は保存協議書を取り交わして現状保存することとなった。また一部掘削の及ぶ堀に覆いは調査を行い記録保存することとなった。

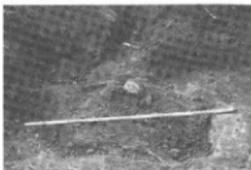
立地 利根川右岸の総社古墳群の南に位置する。現在の利根川が変流する以前は総社から広瀬町倉までは旧利根川の流れによる河岸段丘であり、市街地を含めて古墳が続いている。王山古墳周辺も以前は円墳がいくつか所在していたが、現在は失われている。

調査の概要 王山古墳の墳丘に着いては、その規模が昭和47・48年の発掘調査でおおよそ確認されていたが、今回の調査でも再度確認された。また、墳丘の盛り土の下のF Aで覆われた堀が確認された。盛り土の中にはF Pが混入しており、前方部の築造が後円部になりに遅れていることがわかった。この古墳は、この地区の早い時期の古墳のひとつであり、作り直しが王山古墳の被葬者の子孫の地位の向上による先祖の墓のランク向上の改築とも考えられる。改築は少なくとも30～50年は立っており、1～2世代後の改築作業と見られる。

東の溝については、底面まで流水の後の砂と小礫の堆積が見られ、堀を後世に流路として再利用した可能性が高い。石倉城の堀とも考えられる。

東の古墳については堀のみしか確認できなかった。また、堀を掘削している発掘現場が検出されている。調査区の端であり一部しか確認できなかった。

13. 龍海院酒井彈正他 墓地遺跡



遺跡位置図（国土地理院5万分の1 前橋）



14. 浅間神社古墳



遺跡位置図（国土地理院5万分の1 前橋）



事業名 民間開発 墓地移転
所在地 前橋市紅雲町二丁目8-5
龍海院墓地内

調査期間 平成7年12月12日
担当者 井野誠一、井野修二
調査面積 20㎡

調査の経緯 龍海院住業 過外一健氏より墓地移転の計画の連絡があり、墓石が旧位置のまま所在していた場合には、酒井彈正の墓検出の可能性があり発掘調査を行うこととなった。墓石については専門業者の移転工事に合わせて調査を行うこととした。

酒井彈正は五代藩主酒井忠恭の家臣で、祖先は家康に侍して勤功があり、病気のため前橋に隠居した。彈正は父親譲りで儒学を好み行状正しく、武道も達人であった。そのため別格に扱われ、平日の往来に徒士二人、近習四人、道具挨拶、履鞋を使用し家老家に出合っても下棄せず、平土に立つてはもつてのほかという様であった。そのためか、うとんじられ、彈正の喪子の内意も聞かず志気は家断絶のはからいをしたと伝わる。また、家臣にも一芸に秀でるものが多く、彈正の墓が発するまで事公したといわれる。

調査の概要 現状の墓地は土の高まりが墓壇の様子に作られており、石を配し、墓石が据えられてあった。墓石を撤去すると、盛り土のなかに長さ181cm、厚さ26cm～34cmの上にやや湾曲した石が検出された。石材は

角閃石安山岩で、彈正の墓の南の墓石の下に位置していた。伝承で、墓の北に位置していた龍海院義古墳の石室の天井石の再利用と考えられる。彈正の墓は、地表下70cmで検出された。しっくい層が20cmあり、そのなかに炭の層が20cm認められた。その中は土と炭の混土層になっており、棺の木質は部部で確認された。松材と思われる。遺構の状況から、棺の大きさは、東西3尺、南北2尺、高さ2尺と見られる。棺材の厚さは3cm程度。混土層60cmの下にまたしっくい層が認められた。棺は上部が朽ちていたが、しっくいほぼ残っていた。しっくいの下で地表より150cm、彈正と思われる人骨が認められた。歯の骨から顔は縦面で、右奥の歯に虫歯が認められた。大股骨は非常に立派なもので、伝承の武道の達人話に合致する。現在長33.2cm（欠損5～6cm）、中央の太さが2.5cm。

副葬品は認められなかった。隣の墓は検出面は同じだが、しっくいは認められず、炭の層のみ検出された。人骨等の検出は見られなかった。この二基の墓がこの墓地の中心の墓であり、彈正と妻の墓の可能性が高い。人骨は新しい墓に改葬され、盛り土の巨石も新しい墓地に置かれている。

近世の墓地の貴重な調査の例となった。

事業名 道路改良工事
所在地 前橋市横手町335-1地先
調査期間 平成7年4月5日及び24日
担当者 井野誠一
調査面積 25㎡

調査の経緯 平成6年9月21日に調査地における工事について連絡を受ける。古墳は南を宅地造成により、北を現道路築造により削平を受けており、墳丘の約三分の一が残存している。

今回の工事は道路交通の安全確保上やむを得ないものであり、緊急調査として文化財保護課が行った。

なお、当初は墳丘の一部も掘削予定であったが、協議の結果墳丘は現状保存されることになった。

発掘調査は、古墳の北の現道路基盤下の古墳構築面、古墳裾の調査を中心に実施した。

立地 調査地は前橋市南端の利根川左岸の水田地帯の微高地に位置する。周辺は古代からの水田跡が検出されており、北には公田の地名も残る。

周辺での古墳の確認例は少なく、亀里の竜門と公田での例のみである。

調査の概要 現道路の下からは、周堀が

検出された。古墳の構築面については明確につかめなかった。堀は検出された地点での幅6.5m、深さ50cmを測る。古墳の北側では、堀は確認できなかった。すでに掘削されたものと考えられる。堀の埋め土の上部には堀の外まで一帯に日軽石が堆積している状況が認められた。

堀は幅に比べて浅いもので、断面の観察からは空堀と考えられる。

堀及び残存状況から見て、円堀と考えられる。

古墳の墳丘の径は、約32mで、堀を含めた径は45mと想定される。

15. 大屋敷遺跡Ⅵ



遺跡位置図（国土地理院5万分の1 前橋）



16. 中原遺跡群Ⅵ



遺跡位置図（国土地理院5万分の1 前橋）



事業名 前橋市大屋敷地区土地区画整理事業（施工者 前橋市大屋敷地区土地区画整理組合）

所在地 前橋市総社町総社1905-1 他

調査期間 7年5月10日～11月30日

担当者 齋藤仁志・坂口好孝

調査面積 2,425㎡

調査の経緯 平成4年度より上記事業に伴う調査依頼が継続して提出され、第4年度を迎えた。

立地 前橋市街地の北西約3kmに位置する。標名山東南麓に広がる旭馬ヶ原層状地の端の前橋台地の縁辺である。本遺跡地は、西から南を八幡川、東を天狗岩用水に囲まれた台地に立地し、総社古墳群の南側、推定国府域の北側、山王農寺の東側にあたる。

縄文時代 遺物包含層より、縄文時代中期の土器、石器を検出した。また、今回の調査により初めて炉を持った住居址を確認した。土器は加賀利E式土器が中心を成す。弥生時代 なし。

古墳時代 古墳時代後期の住居址44軒、溝址1条を検出した。住居址からは、土師器・須恵器の坏・椀・甕等の外に長頸甕も出土した。また、昨年度の遺構築材採掘坑

事業名 上増田工業団地造成事業（前橋市工業団地造成組合）

所在地 前橋市上増田町・荻井・今井町地内

調査期間 平成7年4月25日～10月6日

担当者 狩野吉弘・佐藤貞和

調査面積 20,000㎡

調査の経緯 平成4年度より上記事業に伴う調査依頼が継続して提出され、今年で4年目を迎えた。本年度は造成地の東部約20,000㎡を調査した。

立地 中原遺跡群は、前橋市街地の南東約8kmに位置し、北に赤城山を望み、桃木川と荒瀬川に挟まれた旧利根川の河床にあたる荒瀬川低地帯から左岸への移行部に立地している。標高は約80m前後で南へ緩やかに傾斜している。

奈良・平安時代 水田125枚を検出した。これらの遺構は818年（弘仁9年）の大地震に起因するものと想定される厚さ約40cmの洪水層に覆われている。水田の区画の基準になったと思われる大畦畔が調査区中央部を南北方向に1本、そして調査区南部と中央部を東西方向に2本の計3本が検出された。これらの大畦畔は調査区南部と中央部でそれぞれ直交している。平成4年度からの調査により本遺跡群に大畦畔が点在し

W-9号と合流すると思われる溝址（W-13号）を検出したが、石材の採取数は確認できなかった。

奈良・平安時代 住居址34軒を検出した。住居址からは小破片を含め5個体の円面磁器が初めて出土した。このことは上野国府推定地域と大屋敷遺跡との位置関係を考えれば、直接その影響下にあり上野国律令政治を支えた特徴ある集落のひとつと成りうる貴重な発見となった。

中世 なし。

その他 幅6mの道路部分の調査のため出土物が少なく時期不明の遺構も検出された。その数は、住居址10軒である。また、本遺跡地は、古墳時代後期から平安時代までの住居が複雑に重複して検出され、合計で88軒におよんだ。

ており、これらの大畦畔と結んでみると本年度の調査区も東西・南北がそれぞれ約109mの大きな方形区画に造られていることや明らかになった。さらに、方形区画の内部の区画は小畦畔により東西約21m、南北約54mの昨年度の調査で明らかになった東西・南北に長方形を東西に5つ、南北に2つ並べた10の小区画からなることが明らかになった。この区画は昨年度の調査でも同様の区画が検出されており、本遺跡群における水田址が半折型の条里制水田であることがさらに確認づけられた。このような規模での条里制水田が完全に近い形で検出された例は、県内でも数少ない。

中世 井戸址72基、土坑33基、溝址4枚が検出された。井戸址、土坑の内側からは内瓦土器、石臼、古銭等の遺物が出土している。4条の溝址は調査区外北東部を中心に環濠状態で並んでいる。そして、本遺跡北東部の小字名が「田村屋敷」となっており、調査区外北東部に何らかの建築物が存在していた可能性が高い。

17. 中原遺跡群Ⅱ



遺跡位置図（国土地理院5万分の1 前橋）



事業名 上増田工業団地造成事業
（前橋工業団地造成組合）
所在地 前橋市上増田町955番地外
調査期間 平成7年6月9日～8月22日
担当者 團部守央（前橋市教育委員会文化財保護課）・荻野博巳（スナガ環境測設株式会社）

調査面積 10,500㎡
調査の経緯 平成4年度より上記事業に伴う調査依頼が継続して提出され、中原遺跡群Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ（調査団直営）、同Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ（民間委託）に続き、同年度を前橋市埋蔵文化財発掘調査団の立会・指導のもとにスナガ環境測設株式会社が実施した。

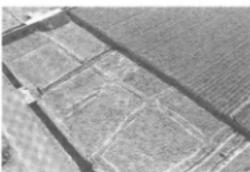
立地 市役所・興行などの所在する市街の東南東約8kmに位置し、東に荒砥川、西に桃の木川が南流する堤内地にあり、旧利根川高路の広瀬川低地帯にある。北に赤城山南麓が広がって標高80m前後で、北から南に緩やかに傾斜する地形である。

奈良・平安時代 水田址83面、溝址1条、水口58カ所、大畦畔2方向、足跡群、陥没水田を検出した。水田址は調査区のほぼ全体から検出され、818年の大地震に起因すると思われる洪水堆積物で覆われている。

水田址には1枚の水田を区画する畦畔や水口・足跡などが検出された。また蛇行しながら北から南方向に続く陥没した水田面や東西・南北方向に伸びる大畦畔（大区画畦畔）の一部など検出した。大畦畔は平成4年度からの調査で検出した東西・南北方向に直交する大畦畔とは約109mの間隔で区画をなすことがわかり、坪境を区切る大畦畔と思われる、衆星制区画に当てはまる。遺物は水田面から土師器・須恵器片等が検出されたが、完成品は検出されなかった。また8号溝は水田と同じ洪水堆積物で覆われており、水田に伴う。遺物は土師器片がわずかに検出されている。

中近世 平安時代の水田面を掘り込んで作られている溝址を7条検出した。これらは現耕作土層下より掘り込まれ、灰褐色・褐色土層を主体に浅間日軽石や水田を覆った洪水堆積層を所々に含む土層で埋まっている。遺物は1～6号溝までは流れ込みの土師器片が検出され、土地改良前まで使用されていた7号溝からは土器片に混じって古銭や磁器類の破片・砥石などの遺物が多く検出されている。

18. 西田遺跡



遺跡位置図（国土地理院5万分の1 高崎）



事業名 都市計画道路朝倉玉村線道路改良事業（街路課）

所在地 前橋市鶴光路町地内
調査期間 平成7年11月13日～12月8日
担当者 狩野吉弘・佐藤則和
調査面積 4,500㎡

調査の経緯 平成6年4月、街路課より上記事業に伴う埋蔵文化財試掘調査依頼が提出された。同年12月、試掘調査を実施したところ、平安時代の水田址が確認された。街路課と協議・調整を行い、7年10月発掘調査の依頼が提出され、11月に発掘調査の委託契約を締結し、現地での発掘調査を開始するに至った。

立地 西田遺跡は、前橋市街から南へ約7kmに位置している。本遺跡の南方1.5kmには利根川が北西から南東に流れ、対岸は玉村町と隣接する。遺跡地周辺の地形ほぼ平坦で、現在も水田が広がっている。

平安時代 調査の結果、平安時代末期（天仁元年・1108年）の浅間山噴火に伴う軽石（As-B軽石）で埋没した水田址27枚を検出した。遺構面は現耕作土下約20～30cmにあり、水田と畦畔の遺存状況は全体的に悪く、後世のカクランによって著しく損なわれていた。検出された畦畔は東西畦畔が10本、南北畦畔が1本の合計11本であっ

た。各畦畔の走行する方向は東西・南北の方向にほぼ合致している。畦畔の構造は下幅40～50cm、水田面からの高さ2～4cm、断面形状は、偏平な台形状またはカマボコ型に近い形状を呈しており、同時代の水田址と比較すると、若干圧縮され、偏平な形状に変形している。四方を畦畔で囲まれた完全な形の水田は検出されなかったが、東西に細長い形であることが想定される。水田面はやや凹凸がみられ、比較的残りのよいところでは人間の足跡と思われる部分も確認された。水口は検出するところではなかったため、各水田への給水方法は標高の高い北側の水田が湧水になった後、東西畦畔をオーバーフローし、順次南側下流の水田へ流れ込むという「かけ流し」の方法をとっていたとも考えられる。調査区中央部からはAs-B軽石を踏み固めた幅約80～100cmの微高土とその両サイドに幅約30～70cmの溝が検出された。この遺構は土地区割りに利用された可能性が高い。

19. 屋敷Ⅱ遺跡



遺跡位置図(国土地理院5万分の1 前橋)



事業名 前橋市社会福祉複合施設(シルバークラブリザ、障害者第三福祉作業所及び身体障害者デイサービス施設複合施設)建設事業(施行者 前橋市長)

所在地 前橋市元郷社町2578-88 他
調査期間 平成7年6月5日～8月23日
担当者 戸所慎策・吉田聖二
調査面積 589.4㎡

調査の経緯 平成7年1月23日に前橋市保健福祉部社会福祉課から開発計画地の埋蔵文化財について照会があった。周辺では多くの遺構が検出されているため、遺跡の可能性があり、試験調査の必要がある旨を回答。平成7年2月9日に試掘調査を実施した結果、住居地遺構が確認されたため、開発に先だって、記録保存のための発掘調査を、前橋市埋蔵文化財発掘調査団が実施することとなった。

立地 前橋市街地の西方約2kmに位置する。標名山東南麓に広がる相馬ヶ原扇状地の端の前橋台地の縁辺に立地する。

本地域は古くから上野国府推定地とされており、周辺には、総社古墳群・国分寺・国分尼寺・山王廃寺・総社神社・善海城址・八日市城址などが存在し、古墳時代から中

事業名 前橋市立第六中学校移転新築事業(教育委員会総務課)

所在地 前橋市総社町1764 他
調査期間 7年9月11日～12月22日
担当者 戸所慎策・吉田聖二
調査面積 5,600㎡

調査の経緯 前橋市立第六中学校移転新築事業に先立ち、教育委員会総務課より依頼があり、学校予定地内の埋蔵文化財の記録保存を目的とし、女堀と愛宕山古墳の範囲確認調査を実施した。

立地 前橋市の西端、標名山東南麓に広がる相馬ヶ原扇状地の端の前橋台地の縁辺に位置する。東に天狗岩用水が流れる。総社古墳群を形成し、愛宕山古墳の北に総社二子山古墳、東に遠見山古墳、南東に宝塔山・蛇ヶ山古墳・玉山古墳がある。

旧石器時代 検出されず。
縄文時代 遺構は検出できなかった。女堀の覆土から石器や縄文時代中期の加曾利式土器片をわずかながら検出した。

古墳時代 古墳時代終末期の愛宕山古墳の周堀の範囲確認調査を実施。耕作により周堀の立ち上がりは、はっきりとしないが、残りの良い北西側の立ち上がりから判断すると愛宕山古墳は方墳であることがいえる。南側は耕作によりはっきりとした周堀の立

世・近世初頭に及び政治・文化の中枢地域であったことを窺わせる。

古墳時代 東壁に竈を有する住居址10軒を検出。

遺物は鬼高式土器を主とした、古墳時代後期に位置付けられるものを中心であり、坏や甕などが多く出土した。

住居内やその周辺からは石製模造品(白玉)5点が検出された。

奈良・平安時代 住居址16軒、柱穴50基、土坑1基が検出された。

2号住居址は、1108年に降下したAs-B(浅間日軽石)の純層に覆われていた。柱穴もAs-Bを覆土に持っており、規則的な配列を有した柱穴列が確認された。

甕の補強材としては、山王廃寺や国府などに関連するものと思われる瓦を使用した住居が多い。

9号土坑から出土した須恵器高台椀1点、カワラク28点は全て壘なり合っており、類例の少ないものである。また、祭祀に関する資料としても貴重なものと言える。

その他 遺物等が無い時代は明らかでないが、土坑19基、井戸2基が検出された。

立ち上がりは検出できなかった。古墳の周堀を含めた全長は南北方向で推定約94メートルの方墳となる。周堀の深さは現地表面から北側で1メートルほどの深さで、南側では0.5メートルほどである。北から南へ下っている地形であるため、周堀の高さはほぼ水平になる。墳丘側の周堀からはほぼ水平に近い状態で礫石が検出された。古墳が造られた時代を決定できる遺物は検出できなかった。

江戸時代 女堀の範囲確認を実施した。堀の形はいわゆる築堀掘りであり、地表面から約5メートルの深さを有する。調査の結果、愛宕山古墳の周堀にそって東西方向に150メートル掘られ、南に直角に曲がっていることが確認された。地元の家々の古文書によると、天狗岩用水から分水しようとして女堀を掘ったが、水が流れなかったためにすぐ埋められたという記述がある。水が流れた形跡は認められなかったため、古文書の内容と一致するといえる。縄文土器が覆土から検出されたが、女堀が造られた時代を決定できる遺物は検出できなかった。

20. 総社愛宕山遺跡



遺跡位置図(国土地理院5万分の1 前橋)



21. 芳賀団地遺跡整理・遺跡台帳整備事業



事業名 芳賀団地遺跡整理・遺跡台帳整備事業

調査期間 平成7年4月1日～平成8年3月31日

担当者 井野誠一・大山和久

芳賀団地遺跡整理

昭和55年に開始された芳賀団地遺跡の整理事業も7年度末をもって開始以来16年間の長期にわたる事業が終了することとなった。

発掘調査総面積は約40.7haに及び、検出した遺構の総数は1,953になる。

発掘調査報告書は、当初5巻計画で始めたが、遺構・遺物の数量等により芳賀北部団地遺跡を2巻に分冊して合計6巻で刊行することに変更し事業を進めた。

また、整理作業にあたっては、発掘調査の担当者を中心に作業委員会を組織して整理の方針決定・指導・報告書の編集・執筆にあたった。

作委員会では、途中で組織の変更を行い現在に至っている。

整理作業は15名の調査員・専門作業員・整理作業員で行ってきた。長期の作業のため作業の分業化を進め、それぞれの技能の

習熟に動めてきた。

この技能は、本事業に引き続いて継続される遺跡台帳整備事業で発揮されることとなった。

7年度は、最終巻の6巻の刊行作業を行った。

遺跡台帳整備事業

芳賀団地遺跡整理事業が終了した後は、本事業が継続されることになる。

本事業では、前橋市内での発掘調査の記録・資料の台帳化の作業を進めているが、そのほかに埋蔵文化財の貸し出しと展示、普及資料の作成配布を行っている。7年度は、6年度の発掘調査の資料をパンフレットにまとめて配布した。また、市役所の一階に定期的に出土土器等を展示している。

さらに、年度末に埋蔵文化財のアンケートを実施したが、その結果土器の貸し出しや長期の展示の希望が多いことがわかった。8年度当初より、貸し出し・長期展示の事業を始める予定である。長期展示では、小中学校の教室に土器・石器等の展示のほかに写真パネルを貸し出して展示する予定である。

22. 市内遺跡発掘調査



事業名 埋蔵文化財発掘調査事業

(市内遺跡発掘調査)

調査期間 平成7年4月21日～平成8年3月31日

担当者 井野誠一・大山和久

調査面積 2,972㎡

(開発面積186,715.68㎡)

調査の概要 平成7年度は23件の確認調査を実施した。7年度も前年に引き続いて、市内南部での開発が多く、水田跡が多く検出されている。市内の西部・南西部では、集落の跡も検出されている。

23件の確認調査の中で、遺跡と確認されたものは8件であった。

保存協議 大渡町の王山古墳は、その周堤と墳丘にかけての開発があり、確認調査の結果墳丘は建物からはずれ、保存協定が締結され、保存となった。

朝倉町の小旦那遺跡は古墳時代の石組遺構と土輪棺が検出されたが、盛り土をおこない保存することとなった。

発掘調査 文京町の不二山古墳Ⅰ・Ⅱはいずれも個人専用住宅建設に伴う開発であったため、市内遺跡で発掘調査を行った。不二山古墳の墓が検出された。また、住宅建設にあたって盛り土を行い、塚の保存につとめる方向で協議中である。

元郷社の若野II遺跡は住居跡が検出されたが、保存が困難であるとのことで、発掘調査を行い、記録保存となった。

その他 前橋田町の稲荷遺跡と宮地町の宮地中田遺跡、六供町の六供下堂木遺跡跡はいずれも水田が主体の遺跡であるが、発掘調査による記録保存の方向で協議中である。

23. 調査会調査



川白田遺跡



宮田遺跡

事業名 調査会調査

調査の概要 調査会調査は、前橋市内の国・県の開発事業に先立つ埋蔵文化財の発掘調査について、県教委と前橋市教委が調査会を設立し、発掘調査を行うものである。発掘調査実施は調査機関に委託して行っている。

県立文書館遺跡 6年度発掘調査の資料の整理委託。調査報告書刊行。

前橋地方・家庭裁判所遺跡 6年度発掘調査資料の整理委託。調査報告書刊行。

石関西梁瀬遺跡 6年度発掘調査の資料の整理委託。調査報告書刊行。

宮田遺跡 前橋市富田町587-1他、調査面積 1,260㎡、調査原因 道路清掃車同車庫等建設工事。発掘調査期間 平成7年4月17日～5月31日。

検出遺構 竪穴住居跡15軒（古墳時代後期～奈良・平安時代）、掘立柱建物跡2棟（奈良・平安時代）、溝状遺構1条、道路跡1条、土坑31基、井戸跡3基。

出土遺物 土器21箱、石器等1箱。

川白田遺跡 前橋市小坂子町1309-1番地他、調査面積6,000㎡、調査原因 県央第二水道用水低区調整池建設工事。発掘調

査期間 平成7年7月14日～平成8年3月31日。

検出遺構 竪穴住居跡19軒（縄文時代前期）、土坑240基（縄文時代前期）。

出土遺物 土器150箱 石器50箱。

総社観音沢遺跡 前橋市総社町総社2326-2、調査面積 300㎡、調査原因 群馬県農業公社格納庫建設工事。発掘調査期間 平成7年10月30日～平成7年11月17日。

検出遺構 竪穴住居跡2軒（奈良・平安時代）、土坑11基、溝1条。

出土遺物 土器・瓦等10箱。

6. 大室公園史跡整備事業

(1) 大室公園史跡整備委員会

平成7年度は、大室公園史跡整備委員会を開催すると共に、委員会の下でより専門的、実務的な業務を担当する古墳整備部会（小二子古墳発掘調査・後二子古墳石室安定度調査・後二子古墳整備基本設計）、民家変遷部会（赤城型民家復原工事）、資料館部会（建設基本構想策定）を、それぞれ3～4回開催し、事業を進めてきました。

各部会の詳しい事業内容については別記しましたが、その他に、部会、部会長、委員会等の事業の進捗に合わせて、事務局の打ち合わせも6回開きました。

○平成7年度大室公園史跡整備委員会の経緯

- ・平7. 10. 23…文化庁への事業報告及び指導
- ・平8. 2. 19…#
- ・平8. 2. 23…平成7年度大室公園史跡整備委員会開催（通算第9回目）

(2) 古墳整備部会

整備を計画している大室4古墳に関し、これまで後二子、前二子、中二子古墳と範囲確認調査を実施してきましたが、今年度は4古墳の中で唯一全面的に復原整備を目指す小二子古墳について、古墳の規模・形状・構造等、復原に向けての基礎資料を得るため、発掘調査を実施しました。

また、将来の公開に備え、前年度の前二子古墳石室の安定度調査に引き続き、後二子古墳石室の安定度調査を実施しました。

さらに、これまでの諸調査の結果をもとに、大室4古墳の整備の基本設計の第1段として、後二子古墳の基本設計を作成しました。

○小二子古墳発掘調査の結果

- ・墳丘は上下2段で構成され、墳丘の規模は、全長36m、前方部幅16.5m、後円部直径27.5mである。
- ・周堀が墳丘の周りを一周し、後円部の周りは広く深く造られ、前方部の周りは狭く浅い。周堀を含めた古墳全体の大きさは、全長43.5m、全幅39mである。
- ・下段墳丘（1段目）は地山整形で盛土はなされていない。
- ・上段墳丘（2段目）は盛土で築造され、後円部には主にローム土を用いるが、前方部は黒色土が使用されている。
- ・埴輪配列や、前方部に比較して後円部が際立って高いという形状を検討した結果、帆立貝式古墳の特徴を備えることが判明した。
- ・石室は、主軸に対して大きく西に振れる横穴式石室であることが確認された。しかし、石室の石を碎いて運び出した形跡があり、閉塞石が残る以外は著しく破壊されている現状である。

以上の事が判明しました。

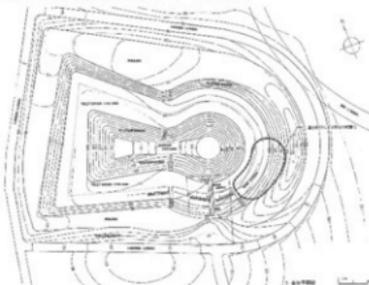


○後二子古墳石室安定度調査の結果

目視による石積み目の表面状態の観察、ファイバースコープによる石積み目の裏込め状態の観察、及び天井石の曲げ強度、基礎地盤の支持力、石材の圧縮強度等の力学的解析を通して、次のような結論が導き出されました。

石室は現状で安定しており、大規模な地震等の外力が加わらない限り、墳丘盛土などの上からの荷重によって石室全体が崩壊することは考えられない。したがって、石材や裏込めの補修程度で一般公開が可能である。しかし、石材の微小振動を把握するため、継続的に変位を測定する必要がある。

○後二子古墳整備基本設計（一部抜粋）



○平成7年度古墳整備部会の経緯

- ・平7. 8. 21…大室公園史跡整備委員会副委員長、国立歴史民俗博物館教授白石太一郎氏より小二子古墳発掘に関する現地指導
- ・平7. 9. 4…平成7年度第1回部会開催
- ・平7. 10. 7…平成7年度第2回部会開催
- ・平7. 11. 16～19…資料館部会と協力し、大室古墳群出土遺物を中心とした文化財展及びシンポジウム開催（文化財展入場者1,600名、シンポジウム参加者150名）
- ・平7. 12. 20…平成7年度第3回部会開催
- ・平8. 1. 31…平成7年度第4回部会開催

(3) 民家変遷部会

民家屋外展示全体としては、古墳時代当初の住まいや生活を学ぶための古代住居の復元、及び、主屋、付属の建物、屋敷林、周辺田畑等を含めた赤城型民家の復元が位置づけられています。今年度は皮切りに、3カ年の予定で復元工事が始まりました。今年度は、赤城型民家の主屋の復元工事に着手し、主屋工事に要する15カ月の工期の内、6カ月分の工事をを行いました。尚、その際民家建設の様子を映像記録として残すため、県教育委員会で進める教育映画撮影事業に協力し、主に蒼蒼き作業の様子を中心に撮影を続けてきました。

○赤城型民家主屋復元工事の経過

- ・平7. 9. 25…地祭り
- ・平7. 10. 3…工事業者作業所へ保存部材移動、仮組作業開始
- ・平7. 10. 15…文化庁建造物課調査官より主屋復元工事に関する指導
- ・平7. 12. 2…大室現地 地形作業
- ・平7. 12. 11…保存部材を大室へ移動、建て方工事開始
- ・平8. 1. 9…上棟式
- ・平8. 1. 10…屋根葺き作業開始、年度未終了

※尚、工事の進捗と平行して、教育委員会総務課、文化財保護課、工事監理業者、及び工事業者の4者による打合わせを、平成7年8月25日より10日間隔を目安として、都合13回設けてきました。

○平成7年度民家変遷部会の経緯

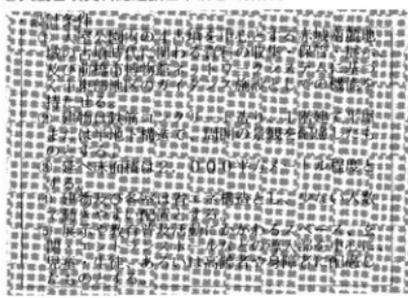
- ・平7. 6. 8…平成7年度第1回部会開催
- ・平7. 10. 31…平成7年度第2回部会開催
(工事業者仮組作業所にて工事状況の確認及び指導)
- ・平8. 1. 9…平成7年度第3回部会開催

(4) 資料館部会

資料館建設に向けて、前年度策定した資料館の展示に関する基本構想に引き続き、建物全体の建設に関する基本構想を策定しました。

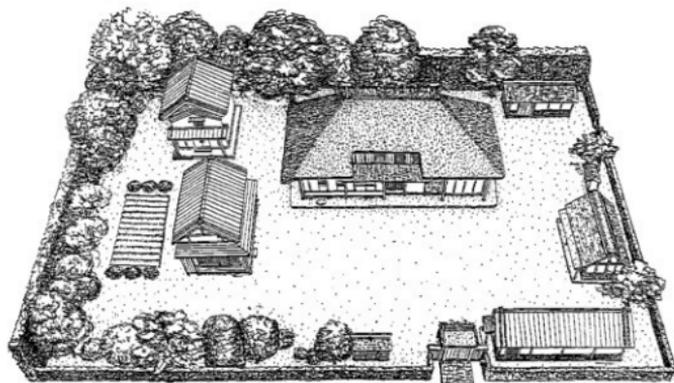
さらに、これまで続けてきた関連資料の収集及び調査研究を続行するとともに、平成3年度より行ってきた大室古墳群の範囲確認調査によって得られた出土遺物資料を中心とした文化財展を開催しました。

○大室古墳資料館建設基本構想(抜粋)



○平成7年度資料館部会の経緯

- ・平7. 6. 29…平成7年度第1回部会開催
- ・平7. 9. 21…平成7年度第2回部会開催
(人間市博物館視察)
- ・平7. 12. 13…平成7年度第3回部会開催
- ・平8. 1. 24…平成7年度第4回部会開催



民家完成予想図

あ と が き

地域の歴史や文化財に対する市民の皆様の関心の高まりに応じて、マスコミで大きく取り上げられることが多くなってきております。前橋市でも総社資料館開館や大室公園民家園工事が進み、新聞やテレビで大きく報道されました。

文化財保護課では市民文化の向上に役だてようと、職員が日夜業務にはげんでいます。その成果をこの報告書で市民の皆様へ報告しております。

この報告書は市民の皆様、文化財理解への案内書として作成しています。ぜひお読みいただいで感想をお寄せください。

そういう市民の御意見も私たちにとっては、より市民の立場にたった行政を行う力になると考えております。

平成8年9月

文化財保護課長

川 合 功

平成7年度

前橋市文化財調査委員

近藤 義雄

丸山 知良

松島 栄治

阿久津宗二

梅沢 重昭

平成7年度

文化財保護課職員

文化財保護課長 本山 卓

文化財保護係長 宮下 寛

埋蔵文化財係長 駒倉 秀一

主査 江原 清

〃 園部 守央

〃 唐澤 保之

〃 井野 修二

主任 井野 誠一

〃 前原 豊

〃 真塩 欣一

〃 斎藤 仁志

〃 戸所 慎策

〃 狩野 吉弘

〃 新井 真典

〃 坂口 好孝

〃 林 信也

〃 大山 知久

主事 吉田 聖二

〃 佐藤 則和

専門員 阿久津宗二

平成7年度文化財調査報告書第26集

平成8年9月15日印刷

平成8年9月20日発行

発行 前橋市教育委員会文化財保護課

前橋市上泉町664-4

印刷 上毎印刷工業株式会社

